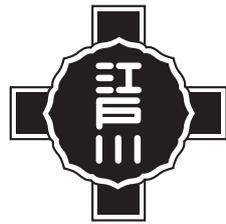


講 義 要 綱



江戸川看護専門学校

2025年度

目 次

教育課程

I	教育理念	1
II	教育目標	1
III	カリキュラムポリシー	1
IV	教育課程表	6
V	学科進度表	7
VI	看護技術卒業時の到達度	8

講義要綱

I	基礎分野	13
II	専門基礎分野	31
III	専門分野	55
	基礎看護学	57
	地域・在宅看護論	71
	健康状態別看護	79
	成人看護学	87
	老年看護学	93
	小児看護学	99
	母性看護学	105
	精神看護学	111
	看護の統合と実践	117

教育課程

I 教育理念

生命の尊厳、人権の尊重と高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を養い、人間に対する深い理解と共感を持つことのできる専門職業人を育成する。

科学的な知識に基づき主体的に行動でき、保健医療福祉の発展に対応できる生涯学習能力を兼ね備えた看護実践者を育成する。

II 教育目標

- 1) 人々の生命と個々の人格・人権を尊重し、豊かな人間性を養う。
- 2) 看護の対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉えるとともに、生活者として理解できる能力を養う。
- 3) 人々の健康と生活を環境との相互作用および心身の相関の観点から、理解できる能力を養う。
- 4) 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人としての倫理観に基づいた行動がとれる能力を養う。
- 5) 健康や障害の状態に応じ、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基礎的能力を養う。
- 6) 保健・医療・福祉における看護職の役割を理解し、チームの一員として他職種と協働できる基礎的能力を養う。
- 7) 社会情勢に関心を持ち、専門職業人として生涯にわたり自ら学び続ける姿勢を養う。

III カリキュラムポリシー

本校の教育は、豊かな人間性を養い、人間に対する深い理解と共感を持つことのできる専門職業人の育成を理念としている。

そこで、看護師として必要な専門的知識・技術・態度を修得し、生涯にわたり自ら学び続ける能力を身に付け、社会に貢献しうる質の高い看護実践が期待できる有効な学習となるように考えた。教育課程は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3分野で構成されている。

基礎分野の考え方

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置付け、生命の尊厳を基盤として、豊かな人間性の形成を目的として人間理解を根底におき、科学的思考力を高め、国際化および情報化へ対応しうる能力、幅広く人間と生活・社会の理解ができるための科目を設定した。

看護の対象となる人間を理解するために、人間の見方、考え方、自然のあり方に気付き思考できるように、「生物学」、「心理学」、「社会学」、「論理的思考」、既成概念や枠組みを取り払い、対象を多角的に捉え、思考や視野を広げることができるための「臨床哲学」、地域に暮らす対象の特性を理解するため、「環境学」、「生活科学概論」、「人間発達学」の授業科目を設定した。

人間関係の形成の基盤になる看護実践力を身に付けるためのコミュニケーション能力を育成

し、社会人基礎力等を身に付けるための授業科目として、「人間関係論」を設定した。

将来にわたり、看護実践力を身に付け、豊かな人間性を目指し、主体的に継続学習していけるように「教育学」、体力の向上、健康維持・増進のための方法について学習するため「運動生理学」を設定した。

さらに、広い視野を養い、国際化、情報化を踏まえて、社会や地域のニーズを捉え、学生自らが適切に判断し、主体的に行動できるように、「情報通信技術 (ICT)」、「看護情報リテラシー」、「英語」を授業科目に設定した。

専門基礎分野の考え方

看護は、対象の生命尊重を基盤に、健康状態に応じて看護実践を行う活動である。看護の対象の生命を維持する仕組みを理解するため、人体の構造と機能に関する知識、健康の状態及び障害に関する観察力と判断力を高め、様々な状況にある人々の健康課題に対する看護実践の根拠となる基礎的知識、より健康な生活が送れるよう支援し、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用するための基礎的知識となる科目を設定した。

人体の構造と機能においては、人体の正常な構造と機能を系統立てて理解するために、解剖学と生理学を統合して学び、臨床で活用できるよう「解剖生理学 I～IV」、「看護形態機能学」、「生化学」、「栄養学」、「臨床栄養学」の授業科目を設定した。

疾病の成り立ちと回復の促進においては、健康障害と回復への過程を理解するための基礎的知識を臨床で活用できるよう「病理学総論」、「疾病と治療 I～V」、「薬理学」、「微生物学」の授業科目を設定した。

健康支援と社会保障制度においては、人間を生活者として捉え、その人にとって意味のある支援が提供できるよう、保健医療福祉に関わる基礎的知識として「現代医療論」、「公衆衛生」、「社会福祉」、「関係法規」の授業科目を設定した。また、生命倫理の基本的な考え方を学ぶことは、倫理観を育成する基本の学習となり、さらに、理論を用いて看護の本質について考え、人々をより健康に導くための基礎的知識として「看護倫理」、「看護理論」の授業科目を設定した。

専門分野の考え方

基礎分野・専門基礎分野で学んだ基礎的知識を統合させ、専門領域看護学の基礎として位置づけ、看護の概念をとらえ、看護の対象と看護の役割を理解し、対象に必要な看護行為を対象の安全・安楽・自立の視点から支援するための看護実践力を学ぶための専門知識・基本的看護技術の修得、看護の専門職業人としての態度も育成できる科目を設定した。

また、看護の対象と看護の目的・役割を理解し、その対象に応じた倫理的配慮、人間の成長発達・ライフサイクルに共通な健康状態に応じた基本的な看護実践を学ぶ基礎となる科目を設定した。

領域を超えて共通して考える健康の保持・増進・疾病の予防、健康回復への促進、その人らしい生を全うする援助については、健康状態に応じた看護を学べる科目を設定した。

臨地実習においては、人間尊重を基盤とし、看護の対象を統合された存在としてとらえ、学習した専門知識・基本的看護技術・態度を応用し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を育成する内容とした。また、地域で療養しながら暮らす対象とその家族を理解し、対象の生活に応じた看護実践力の基礎的能力を学ぶ内容とした。

「**基礎看護学**」は、看護の概念・健康の概念・人間と環境との相互作用などの看護学全般の基礎的概念の学びとして「看護学概論」、エビデンスに基づく、各看護領域に共通する基礎看護技術の修得として「共通基本技術Ⅰ～Ⅳ」「日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ」「診療補助技術Ⅰ～Ⅲ」に授業科目を設定した。また、看護実践能力を高めることを主眼に、その基礎である看護過程の概要、看護実践方法を学ぶため「看護過程方法論」の授業科目を設定した。

臨地実習は、多様な価値観・健康・生活があること、地域・生活環境と人々の生活・健康は相互作用していること、多様な場・対象に応じて看護が提供されていることを学生が理解するために「基礎看護学実習Ⅰ」、看護の対象と療養環境を学び、対象との援助関係の形成ができ、基礎看護技術を患者に適応し、対象とのかかわりから看護をふり返り学ぶ「基礎看護学実習Ⅱ」、看護の対象および対象の抱える健康課題を理解し、援助的関係の形成を行い、基礎看護技術を患者に適応し、対象とのかかわりから看護をふり返る「基礎看護学実習Ⅲ」を実習科目に設定した。

「**地域・在宅看護論**」は、地域で療養する人々だけではなく、生活する人々とその家族を看護の対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護実践を目指し「地域と暮らし」、「家族看護学」、「地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅳ」を授業科目に設定した。

臨地実習は、地域包括ケアシステムなどを促進するために、地域に暮らす人々のパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を修得するため「地域看護論実習」「在宅看護論実習」を実習科目に設定した。

「**健康状態別看護**」は、健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復への促進、その人らしい生を全うする援助がある。健康レベルを踏まえて、健康の保持・増進と疾病の予防は「健康支援論」、その人らしい生を全うする援助は「終末期と看護」として科目を設定した。また、健康障害と回復過程では、健康の回復に向けた看護と、健康問題・健康課題を明確にする思考過程と、特徴的な治療法に対する看護を学ぶ科目として「健康回復支援論」、「看護過程展開論」、「周手術期と看護」、「薬物療法と看護」を設定した。

「**成人看護学**」は、成人期を対象を身体・精神・社会的側面から理解し、健康段階に応じた看護実践を展開する能力を習得するため「成人看護学概論」、「成人看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の授業科目を設定した。

「**老年看護学**」は、老年期を対象を身体・精神・社会的側面から理解し、健康段階に応じた

看護実践を展開する能力を習得するため「老年看護学概論」、「老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を設定した。

臨地実習は、慢性期及び急性期・回復期にある成人・老年期の対象において、対象の身体的・精神的・社会的側面から情報を収集し、アセスメント・計画立案・実施・評価する。看護過程の展開を通して健康問題を持つ成人・老年期の対象への看護援助を実施する。また、終末期にある成人・老年期の対象において、対象のニーズを適切に把握し必要な看護援助を学ぶため「臨床看護基盤実習」、「生活支援看護実習」、「生活再構築看護実習Ⅰ・Ⅱ」を実習科目に設定した。

「**小児看護学**」は、小児の発達段階に応じた日常生活の援助、慢性・急性疾患、発達障害を持つ小児とその家族への看護の知識・技術を習得するため「小児看護学概論」、「小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を設定した。

臨地実習は、病棟実習による病児と家族への看護展開を行い、小児看護に必要な知識・技術を修得し小児看護の役割を理解する。小児の各発達段階を理解し、対象に合わせたコミュニケーション・あそび・日常生活を支える技術等の看護実践の基礎的能力を養う。また、地域で生活し病院へ通院している児と家族と関わりを通じた看護師の役割を学ぶため「小児看護学実習」を実習科目に設定した。

「**母性看護学**」は、看護の対象となる母性の特性、母子を取り巻く家族と社会を理解し対象への健康生活を支える看護実践を展開する能力を身に付ける。母性対象者の妊娠・出産・産褥及び新生児について学び、看護を展開していくために「母性看護学概論」、「母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を設定した。

臨地実習は、人間の性と生殖、女性のライフサイクル各期における健康問題を踏まえ、女性とその健康問題を考え、周産期における母子とそれを取り巻く家族の特徴を理解し、母性看護の特徴と役割を学ぶため「母性看護学実習」を実習科目に設定した。

「**精神看護学**」は、社会情勢に伴い「こころ」の病が増加し、精神保健・看護の需要が一層求められている。精神障害における精神の健康増進のための基礎的な知識・技術を学習するため「精神看護学概論」、「精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を設定した。

臨地実習は、「こころ」に病を持つ人との関わりを持つ重要な機会として実習を位置付け、対象との関わりを通して対象を理解する。そして、「生活」の視点から健康問題を考え、計画立案・実践・評価する。また、実習を通して対象が社会復帰をするための看護職としての連携・役割を学ぶため「精神看護学実習」を実習科目に設定した。

「**看護の統合と実践**」は、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や他職種との連携・協働を学び、臨床判断を行うための基礎的能力を養い看護実践を段階的に学ぶことができるように授業科目を設定した。ハイリスク環境下で安全な看護を

提供するための判断力・実践力を高め、医療システムの中の危険要因を知り、診療の補助における事故防止のための知識・技術を習得するための「医療安全」、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解するための「看護管理」、看護の問題を科学的に解決できるよう、既存の知識や理論を活用するプロセスを学ぶとともに看護を多角的視点から深く考察し、よりよい看護を追求するための「看護研究」、現代の災害対策が地域や国内にとどまることなく国際支援や援助を含むグローバルな考え方が必要であり、自己の生命を守ることから、家族、地域、集団、国民、しいては全人的な看護の意味を知り、防災及び危機管理としての活動や被災時の対応方法を医療人として身に付けるために「災害看護・国際看護」、看護チームにおいて、リーダーシップ能力及びコーディネート能力を發揮しながら、看護の対象のニーズに応じた看護ケアのマネジメントを実践するための基礎的知識、ならびに看護サービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎的知識を習得するために「看護実践マネジメント」の授業科目を設定した。

臨地実習は、看護チームの一員として看護管理の視点を持ち、複数患者の受け持ち・多重課題を通して看護の知識・技術・態度を統合した専門職として必要な看護実践能力を養うため「統合実習」を実習科目に設定した。

IV 教育課程表

教育内容	科目	単位数	時間数	1年次	2年次	3年次	
科学的思考の基盤	学習と文章	1	15	15			
	論理的思考	1	30	30			
	教育学	1	30		30		
	臨床哲学	1	15	15			
	基礎分野	情報通信技術 (ICT)	1	15		15	
		人間発達学	1	15	15		
		社会学	1	30	30		
		生物学	1	30	30		
		心理学	1	30	30		
		運動生理学	1	15	15		
人間関係論		1	30	30			
環境学		1	15	15			
生活科学概論		1	30	30			
看護情報リテラシー		1	15		15		
英語	1	30		30			
人間の生活と社会の理解	看護形態機能学	1	30	30			
	解剖生理学 I	基礎知識/消化器/内分泌	1	30	30		
	解剖生理学 II	呼吸器/循環器/血液	1	30	30		
	解剖生理学 III	腎・泌尿器/運動器/生殖器	1	30	30		
	解剖生理学 IV	脳神経/感覚器/皮膚	1	30	30		
	生化学		1	15	15		
	栄養学		1	15	15		
	臨床栄養学		1	15		15	
	病理学総論		1	15	15		
	疾病と治療 I	呼吸器/循環器/血液	1	30	30		
疾病と治療 II	消化器/内分泌代謝/腎泌尿器	1	30	30			
疾病と治療 III	脳神経/運動器	1	30	30			
疾病と治療 IV	感覚器/皮膚/自己免疫・感染症	1	30	30			
疾病と治療 V	精神障害/小児の健康障害	1	30	30			
薬理学		1	30	30			
微生物学		1	30		30		
専門基礎分野	現代医療論		1	15	15		
	公衆衛生		1	30		30	
	社会福祉		1	15	15		
	関係法規		1	30		30	
	看護理論		1	30		30	
	看護倫理		1	15	15		
	専門分野	看護学概論		1	30	30	
		共通基本技術 I	コミュニケーション	1	30	30	
		共通基本技術 II	環境	1	30	30	
		共通基本技術 III	安全/安楽/感染防止	1	30	30	
共通基本技術 IV		ヘルスアセスメント	1	30	30		
日常生活援助技術 I		食事/排泄/活動/休息	1	30	30		
日常生活援助技術 II		衣生活/清潔	1	30	30		
診療補助技術 I		与薬	1	30		30	
診療補助技術 II		創傷管理/救命救急/呼吸循環	1	30		30	
診療補助技術 III		生体機能管理/検査/処置	1	30		30	
看護過程方法論		1	30	30			

教育内容	科目	単位数	時間数	1年次	2年次	3年次	
地域・在宅看護論	地域とくらし	1	15	15			
	家族看護学	1	15	15			
	地域・在宅看護論 I		1	30		30	
	地域・在宅看護論 II		1	30		30	
	地域・在宅看護論 III		1	30		30	
	地域・在宅看護論 IV	看護過程	1	15		15	
	健康状態別看護	健康回復支援論		1	30	30	
		薬物療法と看護		1	30		30
		周手術期と看護		1	30		30
		終末期と看護		1	30		30
健康支援論			1	30		30	
看護過程展開論		問題解決のための思考過程	1	15	15		
成人看護学		成人看護学概論		1	15	15	
		成人看護学援助論 I		1	30		30
		成人看護学援助論 II		1	30		30
		成人看護学援助論 III	看護過程	1	15		15
老年看護学	老年看護学概論		1	15	15		
	老年看護学援助論 I	看護技術	1	30		30	
	老年看護学援助論 II	看護過程	1	15		15	
小児看護学	小児看護学概論		1	30		30	
	小児看護学援助論 I	看護技術	1	30		30	
	小児看護学援助論 II	看護過程	1	15		15	
母性看護学	母性看護学概論		1	30		30	
	母性看護学援助論 I	健康の維持・増進と看護	1	30		30	
	母性看護学援助論 II	看護過程	1	15		15	
精神看護学	精神看護学概論		1	30		30	
	精神看護学援助論 I	健康障害と看護	1	30		30	
	精神看護学援助論 II	看護過程	1	15		15	
看護の統合と実践	医療安全		1	30		30	
	看護管理		1	15		15	
	看護研究		1	15		15	
	災害看護・国際看護		1	30		30	
	看護実践マネジメント		1	30		30	
基礎	基礎看護学実習 I	環境/生活と健康/コミュニケーション	1	45	45		
	基礎看護学実習 II	対象把握/日常生活援助	1	45	45		
	基礎看護学実習 III	看護過程の展開	2	90		90	
地域・在宅	地域看護論実習	検査センター/福祉協議会等	1	45	45		
	在宅看護論実習	退院支援/地域包括/訪問看護	2	90		90	
成人・老年	臨床看護学実習	生活欲求の把握/生活背景の把握	2	90		90	
	生活支援看護実習	慢性期	2	90		90	
	生活再構築看護実習 I	急性期/周手術期/回復期	2	90		90	
	生活再構築看護実習 II	終末期/緩和ケア	2	90		90	
	小児	小児看護学実習	保育園/病院 (病棟・外来)	2	90		90
母性	母性看護学実習	病院 (病棟・外来)	2	90		90	
	精神	精神看護学実習	病院 (病棟)・地域活動支援センター	2	90		90
統合		統合実習	看護管理/多重課題/夜間実習	2	90		90
合計			104	3060	1155	1095	810

V 学 科 進 度 表

科目	学年	1年次		2年次		3年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤 人間の理解 生活・社会	学習と文章	論理的思考	教育学	情報通信技術(ICT)		
		社会学	臨床哲学	看護情報リテラシー			
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ち と回復の促進	解剖生理学Ⅰ	看護形態機能学				
		解剖生理学Ⅱ	栄養学	臨床栄養学			
専門基礎分野	健康支援と社会保健制度	生化学	病理学総論			微生物学	
		解剖生理学Ⅲ	疾病と治療Ⅰ	疾病と治療Ⅱ		公衆衛生	
専門基礎分野	基礎看護学	環境学	疾病と治療Ⅲ			関係法規	
		運動生理学	疾病と治療Ⅳ				
専門基礎分野	基礎看護学	生活科学概論	疾病と治療Ⅴ				
		心理学	薬理学				
専門基礎分野	基礎看護学	環境学	現代医療論		看護理論		
		生活科学概論	社会福祉				
専門基礎分野	基礎看護学	看護学概論	看護倫理				
		共通基本技術Ⅰ					
専門基礎分野	基礎看護学	共通基本技術Ⅱ	日常生活援助技術Ⅱ	診療補助技術Ⅰ			
		共通基本技術Ⅲ	看護過程方法論	診療補助技術Ⅱ			
専門基礎分野	基礎看護学	共通基本技術Ⅳ		診療補助技術Ⅲ			
		日常生活援助技術Ⅰ					
専門基礎分野	地域・在宅看護論	地域とくらし	家族看護学	地域・在宅看護論Ⅰ			
				地域・在宅看護論Ⅱ			
専門基礎分野	地域・在宅看護論			地域・在宅看護論Ⅲ			
				地域・在宅看護論Ⅳ			
専門基礎分野	健康状態別看護		健康回復支援論	薬物療法と看護	周手術期と看護		
			看護過程展開論		終末期と看護		
専門基礎分野	健康状態別看護			健康支援論	健康支援論		
専門基礎分野	成人看護学		成人看護学概論	成人看護学援助論Ⅰ			
				成人看護学援助論Ⅱ			
専門基礎分野	成人看護学			成人看護学援助論Ⅲ			
専門基礎分野	老年看護学		老年看護学概論	老年看護学援助論Ⅰ			
				老年看護学援助論Ⅱ			
専門基礎分野	小児看護学			小児看護学概論			
				小児看護学援助論Ⅰ	小児看護学援助論Ⅱ		
専門基礎分野	小児看護学						
専門基礎分野	母性看護学			母性看護学概論			
				母性看護学援助論Ⅰ	母性看護学援助論Ⅱ		
専門基礎分野	母性看護学						
専門基礎分野	精神看護学			精神看護学概論			
				精神看護学援助論Ⅰ	精神看護学援助論Ⅱ		
専門基礎分野	精神看護学						
専門基礎分野	看護実践の統合と			医療安全		看護管理	
						看護研究	
専門基礎分野	看護実践の統合と					災害看護・国際看護	
						看護実践マネジメント	
専門基礎分野	看護実践の統合と						
専門基礎分野	臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅲ	臨床看護基盤実習	生活再構築看護実習Ⅰ	
			基礎看護学実習Ⅱ		生活支援看護実習	生活再構築看護実習Ⅱ	
専門基礎分野	臨地実習		地域看護論実習		小児看護学実習	母性看護学実習	
					精神看護学実習	在宅看護論実習	
専門基礎分野	臨地実習						統合実習

VI 看護技術卒業時の到達度

■卒業時の到達度レベル

<演習>

- I：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる
- II：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

<実習>

- I：単独で実施できる
- II：指導の下で実施できる
- III：実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類		卒業時の到達度	
			演習	実習
1.環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	I	I
	2	臥床患者のリネン交換	I	II
2.食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	I	I
	4	食事指導	II	II
	5	経管栄養法による流動食の注入	I	II
	6	経鼻胃チューブの挿入	I	III
3.排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	I	II
	8	膀胱留置カテーテルの管理	I	III
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	III
	10	洗腸	I	III
	11	摘便	I	III
	12	ストーマ管理	II	III
4.活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	I	I
	14	歩行・移動介助	I	I
	15	移乗介助	I	II
	16	体位変換・保持	I	I
	17	自動・他動運動の援助	I	II
	18	ストレッチャー移送	I	II
5.清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	I	I
	20	整容	I	I
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I	I
	22	入浴・シャワー浴の介助	I	II
	23	陰部の保清	I	II
	24	清拭	I	II
	25	洗髪	I	II
	26	口腔ケア	I	II
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	I	II
	28	新生児の沫浴・清拭	I	III
6.呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	I	I
	30	酸素吸入療法の実施	I	II
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II
	32	口腔内・鼻腔内吸引	II	III

	33	気管内吸引	Ⅱ	Ⅲ
	34	体位ドレナージ	Ⅰ	Ⅲ
7.創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	Ⅱ	Ⅱ
	36	創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）	Ⅱ	Ⅱ
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅱ	Ⅲ
8.与薬の技術	38	経口薬（バツカル錠、内服薬、舌下錠）の投与	Ⅱ	Ⅱ
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅰ	Ⅱ
	40	坐薬の投与	Ⅱ	Ⅱ
	41	皮下注射	Ⅱ	Ⅲ
	42	筋肉内注射	Ⅱ	Ⅲ
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	Ⅱ	Ⅲ
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ	Ⅱ
	45	薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）	Ⅱ	Ⅲ
9.救命救急処置技術	46	輸血の管理	Ⅱ	Ⅲ
	47	緊急時の応援要請	Ⅰ	Ⅰ
	48	一次救命処置（Basic Life Support : BLS）	Ⅰ	Ⅰ
10.症状・生体機能管理技術	49	止血法の実施	Ⅰ	Ⅲ
	50	バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅰ
	51	身体計測	Ⅰ	Ⅰ
	52	フィジカルアセスメント	Ⅰ	Ⅱ
	53	検体（尿、血液等）の取扱い	Ⅰ	Ⅱ
	54	簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅱ
	55	静脈血採血	Ⅱ	Ⅲ
11.感染予防技術	56	検査の介助	Ⅰ	Ⅱ
	57	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	Ⅰ	Ⅰ
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	Ⅰ	Ⅱ
	60	感染性廃棄物の取扱い	Ⅰ	Ⅱ
	61	無菌操作	Ⅰ	Ⅱ
12.安全管理の技術	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅰ	Ⅱ
	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	Ⅰ	Ⅰ
	64	患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	Ⅰ	Ⅱ
	66	放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	Ⅱ	Ⅲ
	68	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理	Ⅱ	Ⅲ
13.安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	Ⅰ	Ⅱ
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	Ⅰ	Ⅱ
	71	精神的安寧を保つためのケア	Ⅰ	Ⅱ

講義要綱

- I 基礎分野
- II 専門基礎分野
- III 専門分野

I 基礎分野

科目名： 学習と文章	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 15時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： 使用テキストを読み、予習しておく			
科目全体のねらい：この授業では、さまざまな文章を読み、たくさんの文章を書く。また、長文を読んで読解力を養うとともに、語彙力を上げ論理的な文章のありようを知る。また、書き言葉をもちいて「読み手に伝わる文章」を書く力を身につける。看護学生は学内外のさまざまな場面で文章を書くことが求められるため、早い段階で基本的な文章を書く力を養いたい。			
講義目標： 1) TPOにあった正しいことば遣いを身につける。 2) 日本語の文の構造を理解し、整った文を書けるようになる。 3) 長文を読み解き、要約できるようになる。 4) 報告書と論文、作文の違いを理解し、書き分けられるようになる。 5) 多様な価値観を身につける。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等）			
回	学習内容	方法	備考
1	メールの書き方、敬意表現（基礎）	講義・演習	
2	敬意表現（発展）、原稿用紙の使い方	講義・演習	
3	良質な文章を読む	講義・演習	
4	整っていない文章表現を見直す	講義・演習	
5	報告書・論文・作文の違いを知る	講義・演習	
6	論文を書く	講義・演習	
7	論文を書く	講義・演習	
8	終講試験		
補足：			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験 課題
使用するテキスト： 吉岡友治著 基礎からのジャンプアップノート記述力養成・小論文 書き込みドリル 旺文社			
参考文献：			

科目名： 論理的思考	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： 書籍等を読み、論理的文章にふれておく。			
科目全体のねらい： 誰もが納得できる客観的根拠に基づき、わかりやすい順番で論を展開しながら、自らの意見を主張してゆく力を養う。まずは、看護医療系に限らず様々な論理的文章に触れ、論理的文章の特徴を掴む。また、論理的文章に必要な不可欠なことばの適切な扱い方・簡潔な一文の作り方・接続詞の使い方・情報の収集方法や効果的な示し方などを身に付けてゆく。最終的には、看護師として知っておくべき医療現場での問題をテーマとした小論文を書く。			
講義目標： 1) 論理的文章を読むことを通して、知識・教養を増やし、思考力を伸ばす。 2) 論の筋道を考えて文章を構成できるようになる。 3) 接続詞を駆使して文章を書けるようになる。 4) 有益な情報を効果的に利用しながら論を展開できるようになる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	ことばと表現を知ろう①同音異義語・同訓異義語・四文字熟語・ことわざ	講義	テキスト
2	ことばと表現を知ろう②故事成語・文の構造	講義	テキスト
3	ことばと表現を知ろう③助詞	講義	テキスト
4	話してみよう①スピーチ	講義	テキスト
5	話してみよう②説明する	講義	テキスト
6	敬語・敬意表現を使おう①敬語の種類・敬語の用法（1）	講義	テキスト
7	敬語・敬意表現を使おう②敬語の用法（2）・敬意表現	講義	テキスト
8	書いてみよう①文章の要約・論作文	講義	テキスト
9	書いてみよう②手紙文・案内文・ビジネス文書	講義	テキスト
10	分析と考察をしよう①グラフ・表の分析	講義	テキスト
11	分析と考察をしよう②レポート・論文の書き方	講義	テキスト
12	分析と考察をしよう③自己評価表	講義	テキスト
13	小論文を書く①「医療ミスを防ぐためにすべきこと」	演習	テキスト
14	小論文を書く②「あなたがこれからの人生で大切にしたいこと」	演習	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 夏休みの課題テストで70点以上であることを前提とする。70点未満だった者には課題提出を求める。			
受講上の注意： 以下を夏季休暇中の課題とし、初回講義時にテストを実施する。 ・『NEW看護学生のための看字ドリル』（宣広社）の総復習 ・『できる大人の文章力教室』（日本文芸社）の総復習			評価方法： 筆記試験：50% 課題：50%
使用するテキスト： 1. 『大学生のための日本語表現実践ノート改訂版』風間書房（適宜抜粋し講義中に配布） 2. 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房（適宜抜粋し講義中に配布）			
参考文献／書籍： 1. 『NEW看護学生のための看字ドリル』（宣広社）の総復習 2. 『できる大人の文章力教室』（日本文芸社）			

科目名： 教育学	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 教育が人間形成や文化・社会へ影響することを理解し、生涯学習等に应用できる教育学の基礎について学ぶ。			
講義目標： 1) 教育学全般の基礎的教養を身に付ける。 2) 家庭教育、学校教育、社会教育について学習する。 3) 生涯学習、特別支援教育について学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	教育とケア、形成と教育	講義	テキスト
2	ピアジェの発達論、ヴィゴツキーの発達論	講義	テキスト
3	省察、ヘレンケラーとサリバンの創造的コミュニケーション	講義	テキスト
4	構成的グループエンカウンター	講義	テキスト
5	ケア・教育・養護、メイヤロフのケアの概念	講義	テキスト
6	発達段階の諸理論、エンゲストロームの活動理論	講義	テキスト
7	一次的社会化と二次的社会化	講義	テキスト
8	評価と目標、パフォーマンス評価	講義	テキスト
9	メディアと教育、メディアとしての教師、協同学習	講義	テキスト
10	学校教員を取り巻く3つの課題、教師の専門性	講義	テキスト
11	キャリア教育	講義	テキスト
12	ジェンダーとセクシュアリティ	講義	テキスト
13	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義	テキスト
14	生涯学習	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験：100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 教育学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 臨床哲学	配当時期：1年次 後期 単位数：1単位 時間数：15時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： ケアに関する事象について、日ごろから自分なりの問題関心を深めておく。			
科目全体のねらい：ケアとは、看護や医療の専門的な知識や技術にとどまらず、人間の弱さを前提とした上で生を肯定し、支える営みでもある。ケアにおいては、身体機能や病理のみに注目するだけでなく、人間の存在を「全体」としてとらえる視点が必要とされる。本授業では、「聴く」「におい」「笑い」など、日常生活の何気ない行為を手がかりにしながら、人間の理解やケアのありようについて学ぶ。			
講義目標： 1) 自分と他者、それを取り巻く世界のありようを見つめ、それらを熟慮できるようになる。 2) 自分自身の心の動きを、既成概念や偏見にとらわれず、ありのままにとらえようとする姿勢を身につける。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等）			
回	学習内容	方法	備考
1	イントロダクション：なぜ「臨床哲学」なのか	講義・演習	
2	「みる、きく」：サインを受け取る	講義・演習	
3	「ふれる、さわる」：触覚とケア	講義・演習	
4	「におい」：嗅覚とケア	講義・演習	
5	「笑い」：ユーモアとケア	講義・演習	
6	「生と死」：ネガティブケイパビリティ	講義・演習	
7	「弱さ」：傷つきやすさと当事者研究	講義・演習	
8	終講試験	レポート	
補足：各回とも講義のほかに、小グループに分かれてのディスカッションを行う。			
受講上の注意： 毎回の授業終了時に、リアクションペーパーを提出すること。		評価方法：	レポート
使用するテキスト：授業時に資料を配布する。			
参考文献：			

科目名： 情報通信技術（ICT）	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 15時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 医療や保健分野における情報化に対応するため、コンピュータとネットワークの基本概念と原理、情報処理（統計）について学び、看護学への応用ができるようにする。			
講義目標： 1) 情報科学の概念と情報処理に必要なパソコンの基礎知識、活用技術を学ぶ。 2) 看護における情報収集と活用について学び、情報倫理の現状と必要性を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	人カデバイス	講義	テキスト
2	Word 基本編	講義・演習	資料
3	Word 応用編	講義・演習	資料
4	Excel 基本編	講義・演習	資料
5	Excel 応用編	講義・演習	資料
6	PowerPoint 基本編	講義・演習	資料
7	PowerPoint 応用編	講義・演習	資料
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義・演習は情報処理室でノートパソコンを使用する。			
受講上の注意： *全回、情報処理室を使用する。 *演習時は別途、資料を配布する。 *情報処理室の端末は大切に扱うこと。 *端末は共有して使用するため、個人で作成したファイルの保存は外部記憶装置（USBストレージ等）にすること。		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 看護情報学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 人間発達学	配当時期： 1年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 15時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： 使用するテキストを読んでおく。			
科目全体のねらい： 人間の生涯発達を理解することを目標とし、発達に関する諸理論の理解をもとに、人間の生涯を身体・心理・社会的側面からとらえ、看護のための人間理解を深める。			
講義目標： 1) 発達の定義及び、人間発達の諸理論、発達に影響する要因について理解する。 2) 人間のライフサイクルにおける各時期の発達の特徴を理解する。 3) 各時期の身体、こころの発達の特徴と、形態的・機能的側面の発達、心理・社会的発達、生活背景について理解する。 4) 各時期における発達に関わる健康上の問題の概要を理解する。 5) 各時期の支援について理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	1. 人間発達学の概要 1) 発達の定義 2) 人間の発達における一般的原則と、発達に影響を及ぼす要因	講義	テキスト
2	2. 人間発達の諸理論 1) 発達理論の歴史的展開 2) 現代の発達理論	講義・演習	テキスト
3 4 5 6 7	3. 人間のライフサイクルと発達 1) 各時期における心と身体の特徴 2) 形態的・機能的側面の発達 3) 心理・社会的側面の発達 4) 発達に関わる健康上の問題 5) 発達に必要な支援	講義・演習	テキスト
8	終講試験	筆記	
補足： 初回の授業で、科目オリエンテーションを行う。			
受講上の注意： 必要に応じて学びのレポートとして課題を課す。		評価方法： 筆記試験・レポートなどで総合的に評価する。	
使用するテキスト： 1. 舟島なをみ「看護のための人間発達学」第5版 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院.			
参考文献／書籍：			

科目名： 社会学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 社会とは人と人とのさまざまな関係や結合からなるものであり、人はまた社会との関わりなしには生きていけない。そうした社会の中で、社会人・職業人としての社会学の基礎的知識を学ぶ。また、地域で暮らす人々の生活と地域社会の関係を理解し、ヘルスプロモーションを地域社会の視点から学ぶ。			
講義目標： 1) 社会学の基礎概念について学ぶ。 2) 人、家族、地域と社会の関わり等について理解できる。 3) 地域社会の視点から、健康を想像するヘルスプロモーションについて理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	人間と社会	講義	テキスト
2			
3	家族	講義	テキスト
4			
5	職業と社会	講義	テキスト
6			
7	現代社会と現代文化	講義	テキスト
8			
9	社会問題と政策的対応	講義	テキスト
10			
11	地域社会	講義	テキスト
12			
13	地域社会と健康	講義	テキスト
14			
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 新体系看護学全書 基礎科目 社会学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 生物学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 生物学はこれから学ぶ生理学、生化学、薬理学等、生物関連科目の基礎となる。人を対象とする看護の様々な領域を理解する上でも、生物学の基礎知識を学ぶことは大切である。授業では、生物の最小単位である細胞の構造から生体内で起こる現象まで学んでいく。			
講義目標： 1) 細胞の構造について説明できる。 2) 遺伝情報の伝達について説明できる。 3) 生体内のエネルギー代謝について簡単に説明できる。 4) 生体内環境維持の簡単な仕組みが説明できる。 5) 刺激の受容・応答の簡単な仕組みが説明できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	単細胞から多細胞生物／真核細胞と原核細胞	講義	テキスト
2	細胞の化学成分／細胞膜の輸送	講義	テキスト
3	細胞分裂／染色体と遺伝子	講義	テキスト
4	遺伝情報の担い手（DNA）／複製	講義	テキスト
5	遺伝情報の伝達（RNA）／タンパク質の合成-翻訳-	講義	テキスト
6	変異／ヒトの遺伝／小テスト	講義	テキスト
7	ホメオスタシス／呼吸器系	講義	テキスト
8	消化器系	講義	テキスト
9	循環器系／免疫系	講義	テキスト
10	排出系	講義	テキスト
11	神経性相関／液性相関	講義	テキスト
12	神経系における情報処理の特徴	講義	テキスト
13	環境の情報とその受容／管状神経系	講義	テキスト
14	神経系の情報伝達	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 心理学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 人間の心理や行動に関する基礎知識を学び、自己及び他者の心・行動についての理解を深める。			
講義目標： 1) 心理学の基礎的な知識を学ぶ。 2) 心理学の基礎的知識に基づき、自己・他者理解について学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	心理学とは	講義	テキスト
2	心理学の歴史	講義	テキスト
3	感覚・知覚	講義	テキスト
4	記憶	講義	テキスト
5	感情・動機付け	講義	テキスト
6	行動	講義	テキスト
7	発達①乳幼児期から児童期までの心の発達	講義	テキスト
8	発達②青年期から老年期までの心の発達	講義	テキスト
9	パーソナリティ	講義	テキスト
10	パーソナリティの測定	講義	テキスト
11	社会心理	講義	テキスト
12	心理療法	講義	テキスト
13	カウンセリング	講義	テキスト
14	心理臨床	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 心理学【カレッジ版】			
参考文献／書籍：			

科目名： 運動生理学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 生活科学としての運動生理学に重点を置き、健康と運動の関係を多角的に学ぶ。			
講義目標： 1) 運動に伴う身体の機能・構造の変化を理解できる。 2) 健康の保持増進における運動の意義を理解できる。 3) 健康と運動の関係を学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	1. 筋収縮とエネルギー供給系 2. 筋線維の種類とその特徴	講義	テキスト
2	3. 神経系の役割 4. 筋の収縮様式と筋力	講義	テキスト
3	5. 運動と循環 6. 運動と呼吸	講義	テキスト
4	7. 運動とホルモン 8. 筋疲労の要因	講義	テキスト
5	9. 運動と体温調節 10. 運動と栄養	講義	テキスト
6	11. 身体組成と肥満 12. 運動処方	講義	テキスト
7	13. 運動と生活習慣病 14. 老化に伴う身体機能の変化	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意： 解剖生理学、生化学等の既習の科目の復習をして受講すること。		評価方法： 筆記試験：100%	
使用するテキスト：入門運動生理学 第4版 杏林書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 人間関係論	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護は援助を必要とする人と、援助を提供する専門職との密接な人間関係の上に成り立つ。様々な視点から、人間関係論の基礎について学習する。また、自分を見つめる機会として自己理解も深め、より良い人間関係を構築していく。			
講義目標： 1) 人間関係論の基礎的知識を学ぶ。 2) 自己を見つめ、自己理解を深めることができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	人間関係の中の自己と他者	講義	テキスト
2	対人関係と役割	講義	テキスト
3	態度と対人行動	講義	テキスト
4	集団と個人	講義	テキスト
5	コミュニケーション	講義	テキスト
6	カウンセリングと心理療法	講義	テキスト
7	コーチング	講義	テキスト
8	アサーティブ・コミュニケーション	講義	テキスト
9	保健医療チームの人間関係	講義	テキスト
10	患者を支える人間関係①	講義	テキスト
11	患者を支える人間関係②	講義	テキスト
12	家族を含めた人間関係①	講義	テキスト
13	家族を含めた人間関係②	講義	テキスト
14	地域をつくる人間関係	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 環境学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： 配布資料やテキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 公害・環境問題の事例（主として水俣病事件及び原発問題）をとおして、人間とその生活を取り巻く環境とのかかわりをめぐる諸問題について学ぶ。また、受講者自身がそれら諸問題に向き合うなかで、自ら考察できる視点を獲得することを目標とする。			
講義目標： 1) 人間と環境とのかかわりをめぐる諸問題について理解できる。 2) 人間と環境とのかかわりをめぐる諸問題について考察できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	公害・環境問題に向き合うことの意味	講義	テキスト
2	水俣病事件①：水俣病とは何か？	講義	テキスト
3	水俣病事件②	映像学習	テキスト
4	水俣病事件③	グループディスカッション	テキスト
5	原発問題①：原発問題とは何か？	講義	テキスト
6	原発問題②	映像学習	テキスト
7	原発問題③	グループディスカッション	テキスト
8	総括／期末レポート	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：各回の講義後にリアクション・ペーパーの提出を求める。また、その内容は講義内で受講生にシェアすることがあります。		評価方法： リアクション・ペーパー 30% レポート 70%	
使用するテキスト： 安藤聡彦・林美帆・丹野春香編著『公害スタディーズ：悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ』ころから、2021年			
参考文献／書籍： 原田正純『いのちの旅：「水俣学」への軌跡』岩波書店、2016年 宮崎和加子『愛しき水俣に生きる：訪問看護の源から』春秋社、2006年 熊本学園大学水俣学研究センター編『水俣からのレイトレッスン』（水俣学ブックレット No. 9）熊本日日新聞、2013年 矢吹紀人『終わっとらんばい！ミナマタ：看護師・山近峰子が見つめた水俣病』合同出版、2016年 米倉一磨『災害看護と心のケア：福島「なごみ」の挑戦』岩波書店、2019年			

科目名： 生活科学概論	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： 配布された資料等を熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護師は対象となる人々に対して、快適な療養生活が送れるよう援助する役割がある。人間生活の基本的要素である衣・住のあり方を日常生活援助の基礎知識として学ぶ。また、看護に関連する日常生活動作について、物理学的な理論や技法から学ぶ。			
講義目標： 1) 日常生活の中で、動作・姿勢に興味をもち、関心を高める。 2) 姿勢の種類・特徴を理解できる。 3) 力学的基盤を活用した看護動作の考え方がわかる。 4) 人間にとっての衣・住生活の意義を理解できる。 5) 人間にとって、健康的な衣・住生活のあり方を理解できる。 6) 現代の衣・住生活の現状と課題について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	人の一生と家族・家庭及び福祉／青年期、子供、高齢者、共生社会 人生のマネジメント	講義	資料
2	生活と健康管理／各ライフステージとそれをつなぐ健康管理	講義	資料
3	生活と自然環境／生活と災害、水質問題、エネルギーと温暖化 生活と持続可能性	講義	資料
4	持続可能な消費とリスクマネジメント／生活における経済の計画、法、 消費行動と意思決定	講義	資料
5	人の育ちと家族の関わり、人間関係／コミュニケーション、親になるための 資質	講義	資料
6	食生活の科学と文化／栄養素、食品、調理、献立作成	講義	資料
7	食生活の科学と文化／献立作成実習	講義・演習	資料
8	食生活の科学と文化／日本と世界の食文化、食生活の課題	講義	資料
9	衣生活の科学と文化／衣生活の計画、衣服の表示、購入	講義	資料
10	衣生活の科学と文化／衣服の手入れ、補修	講義・演習	資料
11	衣生活の科学と文化／日本と世界の衣文化、衣生活の資源と環境	講義	資料
12	住生活の科学と文化／住まいの計画・管理	講義	資料
13	住生活の科学と文化／防災などの安全や環境に配慮した住居の機能	講義	資料
14	住生活の科学と文化／日本と世界の住文化、住生活の課題	講義	資料
15	総括／終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト：			
参考文献／書籍：			

科目名： 看護情報リテラシー	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 医療や保健分野における情報化に対応するため、コンピュータとネットワークの基本概念と原理、情報処理（統計）について学び、看護学への応用ができるようにする。			
講義目標： 1) 情報科学の概念と情報処理に必要なパソコンの基礎知識、活用技術を学ぶ。 2) 看護における情報収集と活用について学び、情報倫理の現状と必要性を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	情報とは	講義	テキスト
2	情報社会	講義	テキスト
3	保健医療における情報	講義	テキスト
4	情報と倫理	講義	テキスト
5	情報処理	講義	テキスト
6	医療・看護における個人情報	講義	テキスト
7	コンピュータとネットワーク	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 看護情報学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 英 語	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護活動に必要な基本的英語知識を学ぶ。英語コミュニケーションの基礎を理解し、看護場面における日常英会話を学習する。			
講義目標： 1) 英語の基礎的知識を学ぶ。 2) 看護場面における日常英会話を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	英語のリーディングを通じて「言葉の力」	講義・演習	テキスト
2	「励ましの声を掛けましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
3	「どうなさいましたか」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
4	「気分を聞いてみましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
5	「この問診票に記入いただけますか？」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
6	「行き先を案内しましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
7	「病状を尋ねましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
8	「痛みの部位を聞きましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
9	「症状の持続期間を聞きましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
10	「検査の手順を説明しましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
11	「入院患者との会話を学びましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
12	「手術前後の説明をしましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
13	「薬の説明をしましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
14	「退院後の説明をしましょう」語彙・リスニング・スピーキング	講義・演習	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト：Talking with Your Patients in English, 成美堂			
参考文献／書籍：			

II 専門基礎分野

科目名： 看護形態機能学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護においても人体の形態・構造、機能を学習することは看護の対象である人間理解の第一歩である。この科目では解剖生理学で学んだ知識を土台とし、フィジカルアセスメントの基盤となる生理的な人体の構造・機能や生命活動・日常生活行動における関連性を看護の視点で学ぶ。			
講義目標： 1) 日常生活行動に関わる人体の構造と機能について理解できる。 2) 日常生活行動を外部環境と内部環境の関係から理解できる。 3) 臓器の形態と機能を理解し、病気を看護の視点から捉えることができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	生きているとはどういうことか	講義	テキスト
2	内部環境の恒常性	講義	テキスト
3	恒常性維持のための物質の流通①血液	講義	テキスト
4	恒常性維持のための物質の流通②心臓・血管	講義	テキスト
5	恒常性維持のための調節機構①神経性調節	講義	テキスト
6	恒常性維持のための調節機構②液性調節／ストレスと恒常性維持	講義	テキスト
7	息をする	講義	テキスト
8	食べる	講義	テキスト
9	トイレに行く	講義	テキスト
10	動く	講義	テキスト
11	眠る	講義	テキスト
12	お風呂に入る	講義	テキスト
13	子供を産む	講義	テキスト
14	話す・聞く／外部環境とからだ	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材・人体模型の使用有り。			
受講上の注意： *演習室にある人体模型の取り扱いについては、教員の指示に従うこと。		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			

科目名： 解剖生理学 I 基礎知識／消化器／内分泌	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 解剖生理学は医療専門職の基礎領域であり、看護においても人体の形態・構造、機能を学習することは看護の対象である人間理解の第一歩である。この科目では解剖生理学の意味を理解し、人体の正常な構造や機能を系統立てて理解するための基礎的知識を学ぶ。また、フィジカルアセスメントの基盤となる生理的な人体の構造・機能と生命活動との関連性、消化器、内分泌系について学ぶ。			
講義目標： 1) 人体の正常な構造や機能の基礎知識を理解できる。 2) 消化器系の構造や機能を理解できる。 3) 内分泌系の構造や機能を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	主題	講義内容	方法
1	基礎知識 I ・人体の素材としての細胞・組織	1) 細胞の構造と機能	講義
2		2) 細胞を構成する物質とエネルギー 3) 細胞の増殖と染色体 4) 分化した細胞がつくる組織	
3	基礎知識 II ・構造と機能からみた人体	1) 解剖学的用語	講義
4	基礎知識 III	まとめ	講義
5	消化器 I ・口腔・咽頭・食道の構造と機能	1) 口の構造と機能	講義
6		2) 咽頭と食道の構造と機能	
7	消化器 II ・腹部消化管の構造と機能	1) 胃の構造と機能 2) 小腸の構造と機能	講義
8		3) 栄養素の消化と吸収 4) 大腸の構造と機能	
9	消化器 III ・消化管付属器の構造と機能	1) 膵臓の構造と機能 2) 肝臓と胆嚢の構造	講義
10		3) 肝臓の機能	
11	消化器 IV ・腹膜 まとめ	1) 腹膜 2) 問題演習	講義
12	内分泌 I ・内分泌総論 ・全身の内分泌腺と内分泌細胞	1) 視床下部・下垂体系	講義
13		2) 甲状腺	
14	内分泌 II ・ホルモン調節の実際		講義
15	総括／終講試験		筆記
補足： 講義内容によっては視覚教材・人体模型の使用有り。			
受講上の注意： *演習室にある人体模型の取り扱いについては、教員の指示に従うこと。		評価方法:筆記試験 100% 基礎知識： 20% 消化器： 60% 内分泌： 20%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
参考文献：			

科目名： 解剖生理学Ⅱ 呼吸器／循環器／血液	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： フィジカルアセスメントの基盤となる生理的な人体の構造・機能と生命活動との関連性を、呼吸器、循環器、血液系について学ぶ。			
講義目標： 1) 呼吸器系の構造や機能を理解できる。 2) 循環器系の構造や機能を理解できる。 3) 血液の組成と機能を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	主題	講義内容	方法
1	呼吸器Ⅰ ・呼吸器の構造	1) 上気道 2) 下気道と肺	講義
2	呼吸器Ⅱ ・呼吸のプロセス	1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸器量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 呼吸運動の調節	講義
3			
4			
5	呼吸器Ⅲ ・呼吸器系の病態生理	1) 換気障害 2) 拡散障害 3) 換気血流比不均等	講義
6	循環器Ⅰ ・循環器系の構成 ・心臓の構造	1) 心臓の解剖 2) 血液循環	講義
7			
8	循環器Ⅱ ・心臓の機能 ・末梢循環の構造	1) 心臓の拍出機能：心臓の興奮、心電図 2) 動脈系・静脈系 3) 体循環・肺循環	講義
9			
10	循環器Ⅲ ・血液循環の調節	1) 血圧・血流量の調節 2) リンパ系、総括	講義
11			
12	血液Ⅰ ・血液の組成と機能	1) 血液全般 2) 赤血球／貧血白血球／生体防御 3) 血小板／血液凝固と繊維素溶解	講義
13			
14	血液Ⅱ ・血液型／血液型不適合	1) 血液型 2) 総括	講義
15	総括／終講試験		筆記
補足： 講義内容によっては視覚教材・人体模型の使用有り。			
受講上の注意： * 演習室にある人体模型の取り扱いについては、教員の指示に従うこと。		評価方法：筆記試験 100 呼吸器：40% 循環器：40% 血液：20%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
参考文献：			

科目名： 解剖生理学Ⅲ 腎泌尿器／運動器／生殖器		配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： フィジカルアセスメントの基盤となる生理的な人体の構造・機能と生命活動との関連性を腎泌尿器、運動器、生殖器系について学ぶ。			
講義目標： 1) 腎・泌尿器系の構造や機能を理解できる。 2) 運動器系の構造や機能を理解できる。 3) 生殖器系の構造や機能を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	主題	講義内容	方法
1	腎・泌尿器Ⅰ ・腎臓の構造と機能	1) 腎臓 2) 糸球体 3) 尿細管 4) 傍糸球体装置 5) クリアランスと糸球体濾過量 6) 腎臓から分泌される生理活性物質	講義
2			
3	腎・泌尿器Ⅱ ・体液の調節	1) 体液量の恒常性 2) 酸塩基平衡	講義
4	腎・泌尿器Ⅳ ・排尿路・尿の貯蔵と排尿	1) 構造 2) 尿の成分と正常・異常	講義
5	腎・泌尿器Ⅳ	まとめ	講義
6			
7	運動器Ⅰ・骨格・骨の連結	1) 人体の骨格 2) 骨の形態と構造 3) 関節の構造と機能	講義
8			
9	運動器Ⅱ・骨格筋の構造と機能	1) 体幹 2) 上肢 3) 下肢 4) 頭頸部	講義
10			
11	運動器Ⅲ・筋の収縮	1) 収縮機構 2) 骨格筋収縮の種類と特性	講義
12	生殖器Ⅰ・女性生殖器の構造	1) 女性生殖器 2) 女性の生殖機能（①卵巣周期／②月経周期）	講義
13	生殖器Ⅱ・受精と胎児の発生	1) 生殖細胞と受精 2) 初期発生と着床 3) 胎児と胎盤	講義
14			
15	総括／終講試験		筆記
補足： 講義内容によっては視覚教材・人体模型の使用有り。			
受講上の注意： *演習室にある人体模型の取り扱いについては、教員の指示に従うこと。			評価方法:筆記試験 100 腎泌尿器 : 45% 運動器 : 40% 生殖器 : 15%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
参考文献：			

科目名： 解剖生理学Ⅳ 脳神経／感覚器／皮膚	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： フィジカルアセスメントの基盤となる生理的な人体の構造・機能と生命活動との関連性を、脳神経、感覚器、皮膚について学ぶ。			
講義目標： 1) 脳神経系の構造と機能を理解できる。 2) 感覚器系の構造と機能を理解できる。 3) 皮膚の構造と機能を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	主題	講義内容	方法
1	脳神経Ⅰ ・神経系の構造と機能	1) 神経細胞と支持細胞 2) ニューロン	講義
2		3) 神経系の構造（①中枢神経／②末梢神経）	
3	脳神経Ⅱ ・脊髄と脳	1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能	講義
4		3) 体性神経と自律神経	
5	脳神経Ⅲ ・脊髄神経と脳神経	1) 脊髄神経の構造と機能	講義
6		2) 脳神経の構造と機能	
7	脳神経Ⅳ ・脳の高次機能	1) 脳波と睡眠 2) 本態行動と情動行動 3) 内臓調節機能 4) 中枢神経系の障害	講義
8	脳神経Ⅴ ・運動機能と下行伝導路	1) 運動ニューロン 2) 下行伝導路	講義
9	脳神経Ⅵ ・感覚機能と上行伝導路	1) 感覚の種類と性質 2) 受容器の種類と分布 3) 上行伝導路	講義
10	感覚器Ⅰ ・眼の構造と視覚	1) 眼球 2) 眼球の附属器 3) 視覚	講義
11	感覚器Ⅱ ・耳の構造と聴覚	1) 耳の構造 2) 聴覚 3) 平衡覚	講義
12	感覚器Ⅲ・味覚と嗅覚	1) 味覚器と味覚 2) 嗅覚器と嗅覚	講義
13	皮膚Ⅰ・皮膚の構造と機能・全体の防御機能	1) 皮膚の組織構造 2) 体温とその調節	講義
14	皮膚Ⅱ・清潔援助の基礎知識	1) 皮膚粘膜の構造と機能	講義
15	総括／終講試験		筆記
補足： 講義内容によっては視覚教材・人体模型の使用有り。			
受講上の注意： *演習室にある人体模型の取り扱いについては、教員の指示に従うこと。		評価方法:筆記試験 100% 脳神経：60% 感覚器：20% 皮膚：20%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
参考文献：			

科目名： 生化学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 人間の体内では様々な物質が変化し、協調しながら体の健康を維持している。このように生体がどのような化合物で成り立ち、それらの化合物がどのようにつくられ、壊され、調節されて健康を維持しているのかを細胞レベルで明らかにするのが生化学である。看護において、生体の正常な仕組み・機能の破綻した状態である病気の理解は重要であるため、生化学の基本的知識を学ぶ。			
講義目標： 1) 生体の仕組み・機能を理解できる。 2) 生体の化合物組成を細胞単位で理解できる。 3) 基本的知識が理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	基礎知識、生体の構成、物質と代謝	講義	テキスト
2	脂質代謝	講義	テキスト
3	タンパク質代謝	講義	テキスト
4	水と無機質	講義	テキスト
5	血液と尿	講義	テキスト
6	ホルモンと生理活性物質	講義	テキスト
7	ビタミンと補酵素	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 栄養学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために、体外から取り入れるべき必須物質が栄養素である。生化学の知識をもとに、人間にとっての栄養の意義と健康の関わりなどの基本的概念と各種栄養素について学ぶ。			
講義目標： 1) 人間にとっての栄養の意義を理解できる。 2) 栄養と健康の関わりを理解できる。 3) 各種栄養素を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	栄養学の基本的概念、栄養素の種類とはたらき	講義	テキスト
2	脂質	講義	テキスト
3	タンパク質	講義	テキスト
4	ビタミン	講義	テキスト
5	ミネラル	講義	テキスト
6	ライフステージと栄養①	講義	テキスト
7	ライフステージと栄養②	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 臨床栄養学	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 既習の栄養学の基礎知識を踏まえ、臨床栄養学と看護、日常生活と栄養、食事療法に関する基礎的知識を学習する。			
講義目標： 1) 臨床栄養学の基礎知識を学ぶ。 2) 日常の正しい食生活と健康について理解できる。 3) 療養生活と栄養、食事療法について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	チームで取り組む栄養管理	講義	テキスト
2	疾患・症状別食事療法	講義	テキスト
3	消化器系疾患患者の食事療法	講義	テキスト
4	肝臓・胆嚢・膵臓系疾患患者の食事療法	講義	テキスト
5	栄養・代謝系疾患患者の食事療法	講義	テキスト
6	腎臓系疾患患者の食事療法	講義	テキスト
7	食物アレルギーのある患者の食事療法	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材・食事療法サンプルの使用有り。			
受講上の注意： *演習室にある食事療法サンプルの取り扱いについては、教員の指示に従うこと。			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂			

科目名： 病理学総論	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 根拠に基づいた的確な看護を行うためには、正常な人間の人体の構造と機能を理解した上、病気の原因あるいは経過についても正確な知識が必要である。根拠をもって看護活動に取り組むことは、対象にあった適切な看護を行うためにも重要なことである。この科目では、病気の仕組み（原因と発生機序）、人体の構造と機能において正常から逸脱する様々な症状・徴候のメカニズムについて学ぶ。			
講義目標： 1) 病理学の基礎的知識を学ぶ。 2) 人体の様々な病変について理解できる。 3) 病変の原因・成り立ち・経過を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	病理学で学ぶこと	講義	テキスト
2	先天異常と遺伝子異常	講義	テキスト
3	代謝障害	講義	テキスト
4	循環障害	講義	テキスト
5	炎症と免疫／膠原病	講義	テキスト
6	感染症	講義	テキスト
7	腫瘍／老化と死	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 疾病と治療 I 呼吸器/循環器/血液	配当時期： 1年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： 既習の解剖生理学（呼吸器/循環器/血液）を復習しておく。			
科目全体のねらい： 疾病の起こるメカニズムを学習し、その疾病がどのような症状で現れるかをとらえ、病態生理・検査・治療について学び、疾患の理解を深める。			
講義目標： 1) 代表的な疾患における病態を理解できる。 2) それぞれの疾患について症状、徴候、検査所見、治療法について理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	1.呼吸器の病状と病態生理 1) 喀痰 2) 咳嗽 3) 呼吸困難 4) チアノーゼ 5) ばち指	講義	テキスト
2	2.呼吸器の代表的な疾患と検査・治療 1) 間質性肺疾患；間質性肺炎・サルコイドーシス 2) 下気道疾患：気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患	講義	テキスト
3	3) 呼吸調節に関する疾患：過換気症候群・睡眠時無呼吸症候群 4) 呼吸不全：急性呼吸窮迫症候群 5) 肺腫瘍：原発性肺がん・転移性腫瘍	講義	テキスト
4	6) 胸膜・縦隔・横隔膜・胸膜：胸膜炎・膿胸・自然気胸 ・縦隔：縦隔炎・横隔ヘルニア	講義	テキスト
5	7) 胸部外傷：肋骨骨折・横隔膜破裂・肺損傷	講義	テキスト
6	2.循環器の代表的な疾患と検査・治療 1) 検査：心電図・心臓カテーテル 2) 症状：胸痛・動機	講義	テキスト
7	3) 心不全：左心不全・右心不全	講義	テキスト
8	4) 虚血性心疾患：狭心症・心筋梗塞	講義	テキスト
9	5) 不整脈：徐脈性不整脈・頻脈性不整脈	講義	テキスト
10	6) その他：先天性心疾患・弁膜症・心筋疾患・血管疾患	講義	テキスト
11	3.血液の代表的な疾患と検査・治療	講義	テキスト
12	1) 検査：骨髄検査・骨髄生検 2) 症状：貧血・脾腫・リンパ節腫脹	講義	テキスト
13	3) 造血器腫瘍：白血病・悪性リンパ腫	講義	テキスト
14	4) 赤血球系の異常：巨赤芽球性貧血・再生不良性貧血・溶血性貧血	講義	テキスト
15	5) 出血性疾患：ITP・DIC・血友病	講義	テキスト
15	総括/終講試験	筆記	
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 呼吸器 35% 循環器 35% 血液 30%	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野 II 呼吸器 循環器 血液・造血器 医学書院。			
参考文献／書籍：			

科目名： 疾病と治療Ⅱ 消化器/内分泌・代謝/腎泌尿器	配当時期： 1年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： 既習の解剖生理学（消化器/内分泌・代謝/腎泌尿器）を復習しておく。			
科目全体のねらい： 疾病の起こるメカニズムを学習し、その疾病がどのような症状で現れるかをとらえ、病態生理・検査・治療について学び、疾患の理解を深める。			
講義目標： 1) 代表的な疾患における病態を理解できる。 2) それぞれの疾患について症状、徴候、検査所見、治療法について理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	1. 消化器の代表的な疾患と検査・治療 1) 食道疾患：食道がん・逆流性食道炎	講義	テキスト
2	2) 胃・十二指腸：胃・十二指腸潰瘍・胃がん	講義	テキスト
3	3) 腸および腹膜：腸炎・腹膜炎・イレウス・結腸・腸管ポリープ 直腸がん・肛門疾患	講義	テキスト
4	4) 肝臓・胆嚢の疾患：肝炎・肝硬変・肝不全・肝がん・胆嚢炎・胆嚢がん	講義	テキスト
5	5) 膵臓その他の疾患：膵炎・膵がん・急性腹症・腹部外傷	講義	テキスト
6 7	2. 内分泌・代謝の代表的な疾患と検査・治療 1) 内分泌疾患：視床下部・下垂体前葉・後葉系疾患・甲状腺疾患 ・副甲状腺疾患	講義	テキスト
8 9	2) 代謝疾患：糖尿病・脂質異常症・尿酸代謝異常 ・肥満症とメタボリックシンドローム	講義	テキスト
10 11	3. 腎泌尿器の代表的な疾患と検査・治療 1) 検査・治療：腎機能検査・画像検査・内視鏡検査・透析療法 2) 腎・尿路腫瘍：慢性腎臓病・ネフローゼ症候群・糸球体腎炎	講義	テキスト
12 13 14	3) 尿路の通過障害と機能障害：水腎症・尿失禁・前立腺肥大 4) 尿路・性器の腫瘍：腎細胞がん・膀胱がん・尿道がん・前立腺がん 精巣腫瘍	講義	テキスト
15	総括/終講試験	筆記	
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 消化器 35% 内分泌代謝 30% 腎泌尿器 35%	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 内分泌代謝 腎泌尿器 医学書院。			
参考文献／書籍：			

科目名： 疾病と治療Ⅲ 脳神経/運動器	配当時期： 1年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： 既習の解剖生理学（脳神経/運動器）を復習しておく。			
科目全体のねらい： 疾病の起こるメカニズムを学習し、その疾病がどのような症状で現れるかをとらえ、病態生理・検査・治療について学び、疾患の理解を深める。			
講義目標： 1) 代表的な疾患における病態を理解できる。 2) それぞれの疾患について症状、徴候、検査所見、治療法について理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	1. 脳神経の代表的な疾患と検査・治療	講義	テキスト
2	1) 総論 2) 症状：意識障害・運動障害・頭蓋内圧亢進		
3	3) 脳疾患：脳血管疾患・脳腫瘍 4) 脊髄疾患：脊髄腫瘍	講義	テキスト
4	5) 末梢神経障害：ギランバレー症候群・神経痛	講義	テキスト
5	6) 脱髄・変性疾患：パーキンソン病	講義	テキスト
6	7) 脳神経系の感染症：髄膜炎		
7	8) その他の疾患：中毒・てんかん・認知症	講義	テキスト
8			
9	2. 運動器の代表的な疾患と検査・治療	講義	テキスト
10	1) 外因性（外傷性）の疾患：骨折・脱臼・捻挫・神経の損傷（脊髄腫瘍） 筋・腱・靭帯の損傷		
11	2) 内因性（非外傷性）の疾患： ・先天性疾患 ・骨・関節性の疾患（変形性膝・股関節症） ・骨腫瘍・軟部腫瘍（骨肉腫・骨転移） ・筋および腱の疾患（筋ジストロフィ） ・神経の疾患 ・脊椎の疾患（腰部脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニア・骨粗鬆症）	講義	テキスト
12			
13			
14			
14			
15	総括/終講試験	筆記	
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 脳神経 60% 運動器 40%	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野 II 脳神経 運動器 医学書院.			
参考文献/書籍：			

科目名： 疾病と治療Ⅳ 感覚器/皮膚/自己免疫・感染症	配当時期： 1年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： 既習の解剖生理学（感覚器/女性生殖器）を復習しておく。			
科目全体のねらい： 疾病の起こるメカニズムを学習し、その疾病がどのような症状で現れるかをとらえ、病態生理・検査・治療について学び、疾患の理解を深める。			
講義目標： 1) 代表的な疾患における病態を理解できる。 2) それぞれの疾患について症状、徴候、検査所見、治療法について理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1 2	1. 眼の代表的な疾患と検査・治療 1) 機能の障害と検査：屈折の異常・調節の異常・色覚異常 2) 部位別の疾患：眼瞼（麦粒腫・霰粒腫）・結膜（細菌性・流行性） ・涙器 ・角膜 ・強膜 ・網膜・硝子体（糖尿病性網膜症・白内障・緑内障）	講義	テキスト
3	2. 耳鼻咽喉の代表的な疾患と検査・治療 1) 耳疾患： 外耳・中耳（鼓膜損傷・中耳炎）・内耳（メニエール病・突発性難聴）	講義	テキスト
4	2) 鼻疾患：外鼻・鼻腔（鼻出血・鼻アレルギー）・副鼻腔（急性・慢性副鼻腔炎）	講義	テキスト
5	3) 咽頭・喉頭疾患：扁桃炎・喉頭炎・喉頭がん	講義	テキスト
6	3. 皮膚の代表的な疾患と検査・治療 1) 皮膚の障害：湿疹・アトピー性皮膚炎・帯状疱疹・蜂窩織炎・疥癬	講義	テキスト
7 8	4. 歯・口腔の代表的な疾患と検査・治療 1) 歯・歯周組織の疾患：齲蝕・歯肉炎 2) 口腔粘膜の疾患：アフタ・ペーチェット病・ヘルペス	講義	テキスト
9 10	3) 先天性異常：唇顎口蓋裂 4) 口腔領域の悪性腫瘍：がん腫・肉腫 5) 神経の疾患：顔面神経麻痺・三叉神経麻痺	講義	テキスト
11 12 13 14	6. 自己免疫疾患と検査・治療 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーテス 3) 全身性強皮症 7. 感染症の基礎と病態・検査・治療	講義	テキスト
15	総括/終講試験	筆記	
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 眼 15%・耳鼻 20% 歯口腔 20%・皮膚 10% 自己免疫・感染症 35%	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 感覚器 眼 耳鼻咽喉 歯・口腔 皮膚 女性生殖器 医学書院。			
参考文献／書籍：			

科目名： 疾病と治療Ⅴ 精神障害/小児の健康障害	配当時期： 1年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： シラバスを読み、各授業前に学習内容を確認し、テキストなどで予習を行う。			
科目全体のねらい： 疾病の起こるメカニズムを学習し、その疾病がどのような症状で現れるかをとらえ、病態生理・検査・治療について学び、疾患の理解を深める。			
講義目標： 1) 代表的な疾患における病態を理解できる。2) それぞれの疾患について症状、徴候、検査所見、治療法について理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1 2	1. 精神障害の代表的な疾患と検査・治療 1) 統合失調症 2) 気分障害（双極性障害・抑うつ症候群） 3) パニック障害、強迫性障害、心身症	講義 講義	テキスト テキスト
3 4 5	4) 睡眠障害・アルコール症・摂食障害・パーソナリティ障害 5) 発達障害 6) 認知症	講義	テキスト
6 7 8 9 10 11 12 13 14	2. 小児の健康障害の代表的な疾患と検査・治療 1) 新生児、遺伝性疾患、染色体異常、代謝疾患、内分泌疾患 2) 感染症、アレルギー疾患、免疫疾患、膠原病 3) 呼吸器疾患 4) 循環器疾患 5) 消化器疾患、腎泌尿・生殖器疾患 6) 血液疾患、悪性腫瘍 7) 神経・筋疾患、精神疾患	講義	テキスト
15	総括/終講試験	筆記	
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 精神： 30 % 小児： 70 %	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児看護学各論 医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 精神看護の展開 医学書院.			
参考文献／書籍：			

科目名： 薬理学	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 様々な病態に使用される薬物の作用機序、薬物の人体への影響など、看護現場で適切な薬物療法の支援ができるように、薬物療法の基礎知識及び看護師の役割を学ぶ。			
講義目標： 1) 薬物療法の基礎知識を理解できる。 2) 薬物の作用機序を理解できる。 3) 薬物による人体の影響を理解できる。 4) 薬物療法の支援として看護師の役割を理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	総論	講義	テキスト
2	基礎知識①薬が作用する仕組み	講義	テキスト
3	基礎知識②薬の体内の挙動／薬物の投与経路／薬物の代謝と排泄	講義	テキスト
4			
5	基礎知識③薬物相互作用／薬効の個人差	講義	テキスト
6	基礎知識④薬物使用の有益性と危険性／薬と法律	講義	テキスト
7	抗感染症薬①抗感染症薬概説	講義	テキスト
8	抗感染症薬②抗感染症薬事各論／抗がん薬概説	講義	テキスト
9	抗がん薬／免疫抑制薬	講義	テキスト
10	抗アレルギー薬／免疫増強薬／抗アレルギー炎症薬	講義	テキスト
11	抗炎症薬／抗リウマチ薬／抗尿酸値血症治療薬／末梢神経作用薬概説	講義	テキスト
12	末梢での神経活動に作用する薬物／局所麻酔／筋弛緩薬	講義	テキスト
13	中枢神経系に作用する薬物①全身麻酔薬／催眠薬／抗精神病薬	講義	テキスト
14	中枢神経系に作用する薬物②パーキンソン治療薬／麻薬性鎮痛薬	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：		評価方法：筆記試験 100% 総論：40% 各論：60%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 微生物学	配当時期： 単位数： 時間数：	3年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 微生物に関する基本知識と、感染症を引き起こす病原微生物の性質や治療法、人体に及ぼす影響等について学ぶ。			
講義目標： 1) 微生物学の基礎知識を学ぶ。 2) 主な病原微生物の種類・性質・治療法について理解できる。 3) 病原微生物と感染症（予防・発症・治療）について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	微生物と微生物学	講義	テキスト
2	細菌の性質	講義	テキスト
3	真菌／原虫の性質	講義	テキスト
4	ウイルスの性質	講義	テキスト
5	感染と感染症	講義	テキスト
6	感染に対する生体防御機構	講義	テキスト
7	感染源／感染経路	講義	テキスト
8	滅菌と消毒	講義	テキスト
9	感染症の治療	講義	テキスト
10	感染症の現状と対策	講義	テキスト
11	病原細菌と細菌感染症	講義	テキスト
12	病原真菌と真菌感染症	講義	テキスト
13	病原ウイルスとウイルス感染症	講義	テキスト
14	国家試験問題の解説	講義	資料
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 現代医療論	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護師として人々の健康支援に対し、正しい看護実践を行う上で、医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱えているのかを理解し考察する。			
講義目標： 1) 現代医学・医療の歩みを理解できる。 2) 現代の医療体制、現代医療における諸問題について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	医療と看護の原点－病と癒し	講義	テキスト
2	医療の歩みと医療観の変遷	講義	テキスト
3	私たちの生活と医療	講義	テキスト
4	科学技術の進歩と現代医療の最前線	講義	テキスト
5	現代医療の新たな課題	講義	テキスト
6	医療を見つめ直す新しい視点	講義	テキスト
7	新時代の保健・医療・福祉を展望する	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 1 医療概論 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 公衆衛生	配当時期： 単位数： 時間数：	3年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 公衆衛生は地域社会により、地域住民の疾病予防、健康を保持増進させていくことを目的とし、公衆衛生の幅広い学問体系及び、個人や家族から地域・国のレベルまでの様々な健康支援のあり方を学ぶ。			
講義目標： 1) 公衆衛生の基本的概念、公衆衛生と健康について理解できる。 2) 公衆衛生における法制度、保健活動の実際について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	公衆衛生学とは何か	講義	テキスト
2	公衆衛生のしくみ 疫学・保健統計	講義	テキスト
3	疾病予防と保健管理	講義	テキスト
4	感染症対策①	講義	テキスト
5	感染症対策②	講義	テキスト
6	環境衛生と食品衛生	講義	テキスト
7	環境衛生と食品衛生	講義	テキスト
8	母子保健	講義	テキスト
9	学校保健／職場と健康	講義	テキスト
10	成人保健	講義	テキスト
11	高齢者保健	講義	テキスト
12	精神保健	講義	テキスト
13	医療安全	講義	テキスト
14	社会の高齢化	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

科目名： 社会福祉	配当時期： 1 年次 後期 単位数： 1 単位 時間数： 15 時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： シラバスを読み、各授業前に学習内容を確認し、テキストなどで予習を行う。			
科目全体のねらい：我が国では、すべての人々の生活の安定化をはかるとともに、国民の最低生活を保障するために、公的な社会保障や社会福祉が制度化されている。人間の健康にかかわる事項にさまざまな立場からかかわることが期待される看護職にとって、社会保障、社会福祉の理念や制度、具体的な内容について知ることは必須であり、保健・医療・福祉のそれぞれの専門職と連携し、クライアントを総合的に支えていくことが求められている。本科目では、看護職として必要な社会保障、社会福祉の基礎知識を学ぶ。			
講義目標： 1) 社会保障と社会福祉に関する歴史的変遷および基礎知識について理解できる。 2) 現代社会の変化と社会保障、社会福祉の動向およびサービスの実際について理解できる。 3) 社会福祉実践と医療・看護との連携について知ることができる。			
講義計画 (全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等)			
回	学習内容	方法	備考
1	社会保障の理念と変遷	講義	
2	現代社会の動向	講義	
3	社会保険制度	講義	
4	高齢者福祉と介護保険	講義	
5	障害者福祉と自立支援	講義	
6	子ども家庭福祉と社会的養護	講義	
7	公的扶助、社会福祉援助技術	講義	
8	終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意：毎回の授業終了時に、リアクションペーパーを提出すること。		評価方法： 筆記試験	
使用するテキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 『社会福祉』 医学書院			
参考文献：			

科目名： 関係法規	配当時期： 単位数： 時間数：	3年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護職が専門職業人として活躍するためには、教養、専門的知識及び技術を習得するとともに、その活動分野である我が国の保健医療福祉分野に関する各種の制度や関係法令を十分に理解した上で「看護」の専門性がどのように位置付けられているか、そして看護職がどのような役割を担っているのかを認識することが重要である。そこで本科目は、保健医療福祉分野に関する法規について学ぶ。			
講義目標： 1) 人間の生活と法律の関係を理解できる。 2) 法の諸要素、法の理念をはじめとする法律の基礎について知ることができる。 3) 健康支援のための法律について、その目的と分類を理解できる。 4) 医療の提供に関する、看護職員及びその他医療職種に関わる法律について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	法の概念と厚生行政	講義	テキスト
2	看護法①保健師助産師看護師法	講義	テキスト
3	看護法②保健師助産師看護師法施行令／施行規則	講義	テキスト
4	看護法③保健師助産師看護師学校養成所指定規則／特定行為研修省令	講義	テキスト
5	看護法④看護師等の人材確保の促進に関する法律／ナースセンター	講義	テキスト
6	医事法	講義	テキスト
7	医療法	講義	テキスト
8	健康支援と法律	講義	テキスト
9	疾病予防・健康増進に関する法律	講義	テキスト
10	母子保健に関する法律	講義	テキスト
11	高齢者に関する法律	講義	テキスト
12	社会福祉及び障害者に関する法律	講義	テキスト
13	生活衛生に関する法律	講義	テキスト
14	労働に関する法律	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 看護理論	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時開数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： 基礎看護学実習での自己の看護実践を想起する。			
科目全体のねらい： 看護理論とは何かを探求し、これまでの経験と関連付け、看護理論を実践に生かす意味を明らかにする。			
講義目標： 1) 看護理論と看護学の関連を説明できる。 2) ロジャーズ、オレム、レイニンガー、ワトソン、ベナーなどの看護理論を説明できる。 3) 自身の看護経験事例（エピソード）を記述し、いずれかの理論を用いて意味づけを試みる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	オリエンテーション、看護理論とは何か 事前学習：看護理論に関する書物を読んでくる。 事後学習：講義内容を要約し、自己の課題を明確化する。	講義	テキスト
2 3	看護理論 事前学習：テーマに関する文献を読んでくる。 事後学習：討議内容を要約し、自己の課題を明確化する。	講義 発表 討議	テキスト
4 5	看護理論と看護学① 事前学習：テーマに関する文献を読んでくる。 事後学習：討議内容を要約し、自己の課題を明確化する。	講義 発表 討議	テキスト
6 7	看護理論と看護学② 事前学習：テーマに関する文献を読んでくる。 事後学習：討議内容を要約し、自己の課題を明確化する。	講義 発表 討議	テキスト
8 9	看護理論と看護学③ 事前学習：テーマに関する文献を読んでくる。 事後学習：討議内容を要約し、自己の課題を明確化する。	講義 発表 討議	テキスト
10 11 12 13 14	看護経験事例の意味づけ 1) 看護経験事例に関する場の簡単な紹介 2) 看護経験事例の課題は何か？ 3) その解決のため、どのような看護理論を選択するのか、その理由は？ 4) その看護理論をその場に導入（他の人を納得させ参加させる）ためのプロセスや方法は？ 5) 導入するに当たっての課題は何か？その課題を解決するためにはどうすればよいか？ 6) 看護理論をその場に導入した評価（効果）はどのようにみるか？ 事前学習：授業内容に関連した文献を読んでくる。 事後学習：討議内容を要約し、自己の課題を明確にする。	発表 討議	テキスト
15	看護理論と看護学における今後の課題 事前学習：テーマに関連した文献を読んでくる。 事後学習：討議内容を要約し、自己の課題を明確化する。	講義 発表 討議	テキスト
補足：「看護学概論」より、発展的な内容を扱う。			
受講上の注意： 授業を楽しみ、自由に意見を述べ、他者と対話する。		評価方法： 筆記試験 40% 課題レポート 60%	
使用するテキスト：			
参考文献／書籍：筒井真優美編著：「看護理論家の業績と理論評価」、医学書院 他			

科目名： 看護倫理	配当時期： 単位数： 時開数：	1年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護実践力の基盤となる看護師としての倫理に基づいた行動と責務について学ぶ。そのために現代医療の進歩による延命操作、臓器移植、体外受精、遺伝子操作等、看護実践における種々の倫理的問題を通し、看護者に必要な基本的態度と姿勢について考え、倫理的な感性を養い専門職者としての対応について学ぶ。			
講義目標： 1) 看護倫理の基本的知識、歴史的経緯を理解できる。 2) 看護実践における看護倫理とその必要性を理解できる。 3) 看護場面において、倫理的配慮が専門職として看護職者に求められていることを理解できる。 4) 看護職者の倫理的責任と社会的（法的）責任について理解できる。 5) 看護の場面で生じやすい倫理上の問題について学び、適切な対応について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護倫理の基本的概念	講義・演習	テキスト
2	生命倫理	講義・演習	テキスト
3	倫理原則／職業倫理	講義・演習	テキスト
4	倫理綱領	講義・演習	テキスト
5	看護職の責務／事例学習	講義・演習	テキスト
6	事例学習	講義・演習	テキスト
7	事例学習のまとめ	講義・演習	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意： *演習は個人またはグループワークを実施する。その際のグループは1グループ6名前後で編成する。			評価方法：筆記試験・課題 レポートなどで総合的に評価する。
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 看護職の倫理綱領 日本看護協会 2. よくわかる看護者の倫理綱領 照林社			

Ⅲ 専門分野

基礎看護学

地域・在宅看護論

健康状態別看護

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

看護の統合と実践

基礎看護学

看護学概論

共通基本技術 I ・ II ・ III ・ IV

日常生活援助技術 I ・ II

診療補助技術 I ・ II ・ III

看護過程方法論

科目名： 看護学概論	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護学概論は、看護学の導人に位置付けられる科目であり、看護の対象とする事象について概観し、探求するための多角的な視点を学ぶ科目である。看護の主要な概念、看護学の歴史的発展過程、看護実践を導くための理論的根拠となる看護理論の変遷、看護の役割と機能等について学ぶ。これらの学びを通して、自己の看護観を培う。			
講義目標： 1) 看護の基本となる概念（看護、人間、健康、環境）について理解できる。 2) 看護の歴史的変遷を概観し、看護と社会の関わりや専門性について理解できる。 3) 看護師の役割と機能を理解できる。 4) 看護活動に必要な概念（看護理論、看護倫理、看護管理他）について理解できる。 5) 看護の展望と課題について説明できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	健康の捉え方 健康の概念	講義	テキスト
2	健康と生活	講義・演習	テキスト
3	看護の対象の理解	講義	テキスト
4	人間の理解	講義	テキスト
5	看護の本質	講義	テキスト
6	看護の役割と機能	講義	テキスト
7	職業としての看護	講義	テキスト
8	看護理論：ナイチンゲール	演習	
9			
10			
11	看護における倫理	講義	テキスト
12	看護における連携と協働	講義	テキスト
13	医療従事者と保健医療チーム	講義	テキスト
14	継続看護／専門職間の連携・協働	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用や演習有り。			
受講上の注意：演習は個人またはグループワーク・発表を実施する。 時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります		評価方法： 筆記試験・演習課題	100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 2. フローレンス・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳：看護覚え書、現代社			
参考文献／書籍：			

科目名： 共通基本技術 I コミュニケーション	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容：実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。			
科目全体のねらい： 看護の基盤となる人間関係形成に大きく影響を及ぼすコミュニケーションの意義と方法について理解し、看護実践場面で適切かつ意図的に対応できる効果的なコミュニケーション技術と方法を学ぶ			
講義目標： 1) 看護におけるコミュニケーションの意義を理解することができる 2) 効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得することができる 3) 対人関係を発展させるコミュニケーションについて理解し、実践することができる 4) コミュニケーション過程の構成要素とその違いによるコミュニケーション分類について理解することができる 5) 専門的援助関係を支える援助的コミュニケーションについて理解し、実践することができる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	1. 意義と目的	講義 演習	テキスト 配布資料
2			
3	2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本		
4	4. 効果的なコミュニケーションの実際① 5. コミュニケーション障害への対応		
5	6. 情報の正確な伝達 1) ミスコミュニケーション 2) 報告・連絡・相談		
6			
7	7. 関係構築のためのコミュニケーション① 1) アサーティブネス 2) 他者に対する反応		
8	8. 関係構築のためのコミュニケーション② 1) 自己理解、自己開示 2) フィードバック		
9	9. 対人関係の振り返り 1) プロセスレコード		
10			
11	10. 効果的なコミュニケーションの実際② 1) 説明の技術（同意書）		
12			
13	11. コミュニケーションの基本姿勢		
14			
15	終講試験		
補足：初回の授業の冒頭で、簡単な科目オリエンテーションを行う			
受講上の注意： 演習等を多く取り入れた授業となるため、積極的に取り組んでほしい 時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります		評価方法： 筆記試験：70% 課題提出：30%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院			
参考文献／書籍： 1. ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護学技術 I メディカ出版 2. 看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 3. 初めての看護実践 看護コミュニケーション ヘルス出版			

科目名：共通基本技術Ⅱ 環境		配当時期：1年次 前期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。			
科目全体のねらい： 人間と環境は相互に影響し合っており、環境は人間の心身に大きな影響を及ぼす。病院をはじめ療養の場では様々な発達段階、健康段階の対象者が存在することから、環境が対象者への回復過程にもたらす影響は大きい。これらの環境調整の知識と技術を学ぶ。			
講義目標： 1) 快適で安全な療養生活を送るための環境調整について理解できる。 2) 病床を整える技術を習得することができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護技術の特徴、適切に実践するための要素 援助計画書について リフレクションについて	講義	テキスト 参考書籍
2	生活環境と人間の健康との関係 環境調整を行う意義、療養生活の環境について	講義・演習	
3			
4	ベッドメイキング	講義	
5	ベッドおよびベッド周囲の環境調整の実際	校内実習	
6			
7	ベッドメイキング（シーツ交換）と環境整備の実際 シーツのたたみ方	校内実習	
8			
9			
10	臥床患者のリネン交換	講義	
11	臥床患者のリネン交換の実際	校内実習	
12			
13	ベッドメイキング技術確認	校内実習	
14			
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意： *校内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。 *校内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。校内実習後は振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 筆記試験＋技術確認 合計で100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
※時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります			

科目名：共通基本技術Ⅲ 安全／安楽／感染防止		配当時期：1年次 前期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。				
科目全体のねらい： 安全・安楽・感染防止の知識・技術は、あらゆる医療・看護の根底にあるもので、すべての技術に保障されなければいけない。ここでは、安全・安楽・感染防止の原理・原則を理解し技術の習得を目指す。				
講義目標： 1) 感染成立の条件と感染予防の基礎知識が理解できる。 2) 標準予防策と無菌操作の技術を習得することができる。 3) 安全は人間の基本的なニーズであり、すべての看護活動の基盤であることが理解できる。 4) 安楽は人間の基本的なニーズであり、回復過程において必要不可欠であることが理解できる。				
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回	学習内容	方法	使用教材	
1	看護場面における安全の基礎知識 転倒・転落のための歩行、移動介助 患者誤認防止策、インシデント・アクシデントの予防や発生時の対応	講義・演習	テキスト 参考書籍	
2 3	感染成立の条件、院内感染について 標準予防策、感染経路別予防策 感染性廃棄物の取り扱い 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 無菌操作・滅菌手袋の扱い・ガウンテクニック	講義		
4	標準予防策の実際（手洗い・マスク・手袋・エプロンまで） 感染性廃棄物の取り扱いの実際	校内実習		
5	無菌操作・滅菌手袋の扱い・ガウンテクニックの実際	校内実習		
6	安楽の促進、苦痛緩和のケア	講義		
7	安楽の促進、苦痛の緩和ケアの実際（ポジショニング）	校内実習		
8 9	安楽の促進、苦痛の緩和ケアの実際（熱布バックケア）	校内実習		
10	安楽の促進、苦痛緩和のケア	講義		
11 12	安楽の促進、苦痛の緩和ケアの実際（手浴）	校内実習		
13 14	安楽の促進、苦痛の緩和ケアの実際（足浴、フットケア）	校内実習		
15	総括／終講試験	筆記		
受講上の注意 *校内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。 *校内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。校内実習後は振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 筆記試験＋技術確認 合計 100%		
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考テキスト 新版からだの地図帳 講談社				
※時間割の都合上、講義の順番、内容が変更になる場合があります。				

科目名： 共通基本技術Ⅳ ヘルスアセスメント	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 武本 聖樹	
事前学習内容： 実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。解剖生理学を復習しておく。			
科目全体のねらい： 看護の対象を理解するうえで、ヘルスアセスメントの能力は必要不可欠であり、それを実施する場面の多くは、患者の病状経過や治療経過に対応して、身体状況の変化を予測しつつ、病態に関連したポイントに焦点を当てて観察する場面となる。フィジカルアセスメントの先には必ずアセスメント結果を活かした看護援助があることを理解する必要がある。系統別（神経系、筋・骨格系、呼吸器系、循環器系、消化器系）ヘルスアセスメントの目的と方法を学び、どのような状況で必要になるのか、得られた情報をどのように判断すればよいのか、次の観察や看護援助にどう活かしていくのかを考えながら、適切なフィジカルアセスメントを実践する知識と技術を修得することを目指す。			
講義目標： 1) 必要な知識を、解剖生理学と関連させながら学ぶことができる。 2) 必要な技術を、正確に観察することができる。 3) 観察した内容を記録し、アセスメントすることができる。 4) アセスメントした内容を活かして援助を考えることができる。 5) 観察した内容やアセスメント及び今後の援助の方向性について報告することができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	ヘルスアセスメントの意義	講義	テキスト 参考書籍
2	ヘルスアセスメントに必要な技術	講義	
3	バイタルサインを観察する意義	講義	
4	フィジカルアセスメントの技術① 呼吸・循環	講義	
5	フィジカルアセスメントの技術② 消化器・脳神経	講義	
6	フィジカルアセスメントの技術③ 感覚器・運動器	講義	
7	バイタルサイン測定の技術	学内実習	
8			
9	フィジカルアセスメント 異常の観察① 呼吸器系	学内実習	
10	フィジカルアセスメント 異常の観察② 循環器系	学内実習	
11	フィジカルアセスメント 異常の観察③ 脳神経系	学内実習	
12	フィジカルアセスメント 異常の観察④ 筋・骨格系	学内実習	
13	フィジカルアセスメント 異常の観察⑤ 消化器系	学内実習	
14	心理・社会的アセスメント 計測	講義	
15	総括／終講試験	筆記	
補足：講義内容によっては視覚教材の使用有り。 時間割の都合上、講義の内容や順序が入れ替わることがあります。			
受講上の注意： *学内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。 *学内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。学内実習後は振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 試験：100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2. 看護が見える No.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 3. 新版からだの地図帳 講談社			

科目名： 日常生活援助技術Ⅰ 食事・排泄・活動・休息	配当時期： 1年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： 実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。教科書の内容をよく読んでおく。援助計画書を作成する。(事前に伝えます。)			
科目全体のねらい： 人間において活動・休息・食事・排泄は生きていくうえで最も重要な営みである。あらゆる健康状態にある対象者にとっての活動・休息・食事・排泄の意義、メカニズムについて学習する。看護実践において状況を分析・判断するうえでなくてはならない知識である。また対象者に合わせた安全・安楽な看護技術の習得を目指す。			
講義目標： 1) 活動・休息の意義、看護援助について理解することができる。 2) 対象者の状況に合わせた移乗・移送・移動における看護技術について理解する。また安全・安楽に実践することができる。 3) 食事の意義、看護援助について理解することができる。 4) 食事の基本的な看護技術について理解し、安全安楽に実践することができる。 5) 排泄の基本的な知識とメカニズムについて理解することができる。 6) 排泄における基本的な看護技術について理解し、安全安楽に実践することができる。			
講義計画 (全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回	学習内容	方法	使用教材
1	活動・休息の意義 活動と休息を支える看護援助について	講義	テキスト・参考資料
2	体位変換・車椅子への移乗における看護技術の実際	学内実習	
3			
4	対象者の状況に合わせた移動・移乗・移送における援助の実際 (車椅子移乗・移送・ストレッチャー移動・移送・ 車椅子点検方法)	学内実習	
5			
6	食事援助の基礎知識・経口的栄養摂取法・非経口的栄養摂取法 (経管・経静脈栄養法)	講義	
7	食事摂取介助の実際・胃管挿入の実際・経鼻経管栄養法の実際	学内実習 講義	
8			
9	排泄の基本的知識とメカニズムについて	講義	
10	対象者の状況に合わせた尿器・便器における排泄援助の実際	学内実習	
11			
12	排泄を促す援助技術 (導尿、浣腸、排便、ストマケア)	講義	
13	一時的導尿法の援助の実際	学内実習	
14			
15	総括／終講試験	筆記	
補足：※時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります			
受講上の注意： *校内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 参考資料：1. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2. ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術 基礎看護学③			

科目名：日常生活援助技術Ⅱ 衣生活/清潔		配当時期：1年次 後期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。				
科目全体のねらい： 人間にとっての衣生活・清潔の意義を理解し、健康生活に向けた基本的知識・技術を習得する。				
講義目標： 1) 皮膚・粘膜の構造を理解し、清潔援助の効果を知ることができる。 2) 患者の状態に応じた清潔援助のアセスメント方法を知ることができる。 3) 患者の衣生活におけるニーズを知り、患者に適した衣類の選択を理解できる。 4) 身体の清潔に関する目的と根拠を知り、清潔の援助を原理原則に基づいて考えることができる。 5) 清潔と衣生活の援助技術を習得することができる。				
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回	学習内容	方法	使用教材	
1	身体の清潔の意義、清潔行動に影響を与える因子、身体の清潔における看護の役割、病床での衣生活援助の基礎知識	講義	テキスト 参考書籍	
2 3	清潔援助の基礎知識（入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴とフットケア・陰部洗浄・整容・口腔ケア） 病衣・寝衣の交換についての基礎知識	講義		
4	衣生活に関するニーズの選び方 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義・演習		
5 6	清潔援助技術の実際（寝衣交換）	校内実習		
7 8 9	清潔援助技術の実際（清拭と寝衣交換）	校内実習		
10 11	清潔援助技術の実際（陰部洗浄）	講義		
12 13	清潔援助技術の実際（洗髪）	校内実習		
14	清潔援助技術の実際（洗面と口腔ケア）	校内実習		
15	総括／終講試験	筆記		
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。				
受講上の注意： *校内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。 *校内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。校内実習後は振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 筆記試験、課題など 合計で100%		
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
※時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります				

科目名： 診療補助技術 I 与薬	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容：使用テキストを読み、予習しておく			
科目全体のねらい：診療に伴う援助の意義を理解し健康の充足・維持増進のために実施される治療・検査・処置の基本的知識、技術、看護を学ぶ。この科目では薬物療法における援助技術を習得する。			
講義目標： 1) 薬物療法の意義と看護師の責任と役割を理解する 2) 与薬の基本的知識を理解し援助技術について学ぶ。 3) 輸血における基本的知識、援助技術について学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	薬物療法と与薬 与薬の基礎知識 薬に関する法律 薬の管理 正しい与薬	講義	テキスト
2	与薬の種類と援助技術の基礎知識 経口与薬 吸入 点眼	講義	テキスト
3	点鼻 経皮的与薬 直腸内与薬 浣腸	講義	テキスト
4	注射法の基礎知識 I 注射の安全 血中濃度 注射法の基礎知識 II 皮下注射 皮内注射	講義	テキスト
5	筋肉内注射	講義	テキスト
6	静脈内注射 点滴	講義	テキスト
7	中心静脈内注射	講義	テキスト
8	輸血の基礎知識	講義	テキスト
9 10	浣腸 1) 必要な物品の準備 2) 6Rの確認 3) 注意すべき点、リスク 4) 浣腸の実施	学内実習	配布資料 援助計画書
11 12	筋肉内注射の実際 1) 注射器の扱い 2) アンプルの取り扱い 3) 注射薬の準備 4) 三角筋への筋肉内注射の実施 静脈内注射の実際 1) バイアルの取り扱い 2) 静脈内注射の実施	学内実習	配布資料 援助計画書
13 14	点滴 1) バイアルの取り扱い 2) ミキシング 3) プライミング 4) 敵数合わせ	学内実習	配布資料 援助計画書
15	終講試験		
補足：講義内容によっては視聴教材の使用あり			
受講上の注意： 校内実習時は実習室オリエンテーションの内容を理解し決められたルールを遵守すること。校内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングをして臨むこと。校内実習後には振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 筆記試験・課題 100点	
使用するテキスト：系統看護学講座 専門分野 1 基礎看護学技術 I 基礎看護技術 II 医学書院			
参考文献：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

科目名： 診療補助技術Ⅱ 創傷管理／救命救急処置 ／呼吸循環を整える技術		配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者：専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 創傷管理、救命救急処置、循環・呼吸を整える援助技術における基礎知識・技術・看護を学ぶ。			
講義目標： 1) 皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程を述べるができる。 2) 創傷の管理をする知識と技術を理解し、実践できる。 3) 対象の生命の安全を確保するために、救命救急の概要と目的を理解し、救急・急変時の看護師の役割と一時救命処置（BLS）に関する知識と技術を習得できる。 4) 循環・呼吸を整える援助技術について学ぶ。 5) 安全・安楽でプライバシーが保護され、苦痛が最小限で援助できる基本的態度・姿勢を習得できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	創傷管理技術 基礎知識、創傷処置、ドレーン挿入部の処置、包帯法	講義	テキスト
2	創傷管理技術 褥瘡予防、援助の実際		
3	創傷管理技術（包帯法、テープ固定法）	学内実習	
4	救命救急処置①（葛西消防署でのBLS・ALS）	外部講習	テキスト 参考書籍
5			
6	救命救急処置② 救命救急技術の実際（院内急変、生体情報のモニタリング）	講義	テキスト
7	酸素吸入療法の基礎知識と援助の実際（中央配管・酸素ボンベ）	講義 学内実習	テキスト
8			
9	排痰ケアの基礎知識と援助の実際（吸引・体位ドレナージ）	講義 学内実習	テキスト
10	胸腔ドレナージの基礎知識と援助	講義	テキスト
11	吸入の基礎知識と援助（ネブライザー）	講義	テキスト
12	人工呼吸器の基礎知識と援助	講義	テキスト
13	体温管理のための基礎知識と援助	講義	テキスト
14	末梢循環促進のための基礎知識と援助（電法）	講義 学内実習	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。消防署による一次救命処置（BLS）の演習有り。			
受講上の注意： ＊学内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。 ＊学内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。校内実習後は振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 筆記試験 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2. e-ナーstreiner			

科目名：診療補助技術Ⅲ 症状・生体機能管理技術/ 診察・検査・処置における技術	配当時期：2年次 前期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。実習室オリエンテーションの内容を理解しておく。			
科目全体のねらい： 検体検査や生体情報のモニタリング、診察・処置で得られた検査値やデータなどの客観的情報をから、医師による健康状態の判断・疾病の判断・治療方針の選択・治療効果の確認、最善な看護ケアの選択などに利用される。正確な情報を得られるための、各技術の意義や看護の役割を学ぶ。			
講義目標： 1) 血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査、穿刺や生検などの検査時の概要と看護の実際について理解できる。 2) 生体情報のモニタリングと看護の実際が理解できる。 3) 各生体検査と検査時の看護について理解できる。 4) 静脈血採血の基礎的技術が習得できる。 5) 血糖測定の基礎的技術が習得できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1 2 3	臨床検査の流れと看護師の役割、診察の介助、検査の概要（X線検査、上部消化管造影、注腸造影検査、ERCP、コンピュータ断層撮影、磁気共鳴画像、核医学検査、脳血管造影）と検査時の看護	講義	テキスト 参考書籍
4 5	検査の概要（上部内視鏡検査、下部内視鏡検査、気管支鏡、超音波検査、心電図検査、脳波、肺機能検査）と検査時の看護	講義・演習	
6 7	検査の概要（胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺）（肝生検・腎生検、筋生検）と検査時の看護	講義・演習	
8 9	血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定、ホルモンの血中濃度、ホルモン負荷試験、75g OGTT）、	講義・演習	
10	尿検査、ウロダイナミクス、残尿測定、膀胱鏡検査、便検査、喀痰検査 パッチテスト、プリックテストの概要と検査時の看護		
11	生体情報のモニタリングの意義と看護の役割	校内実習	
12 13	静脈血採血の実際	校内実習	
14	血糖測定の実際	校内実習	
15	総括／終講試験	筆記	
受講上の注意 *校内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。 *校内実習前に「援助計画書（手順書）」を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。校内実習後は振り返りレポートを記入し提出すること。		評価方法： 筆記試験＋技術確認 合計100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 3. 新版 からだの地図帳 講談社			
参考文献：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎と臨床がつながるバイタルサイン 学研 看護がみえる③フィジカルアセスメント メディックメディア			
※時間割の都合上、講義の順番、内容が変更になる場合があります			

科目名：看護過程方法論	配当時期：1年次 後期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 看護における一連の思考過程としての知識や方法について学ぶ。健康問題によって影響された「人間の反応」や「強み（もっている力）」「願い」に焦点をあてる。クリティカルシンキング（適切な基準や根拠に基づく論理的でかたよりのない思考）の考え方をを用いて看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的の3側面からとらえ対象理解を深めていく。ゴードンの11の機能的健康パターンのアセスメントの枠組みを活用し、意図的な情報収集、情報分類、アセスメントを展開し、看護問題の抽出、看護目標看護計画を立案し、実践、評価していく方法論を身につける。			
講義目標： 1) 看護過程の意義と思考プロセスについて理解できる。 2) 看護における記録と管理の方法について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義 看護過程の基盤となる考え方、記録の目的と留意点	講義	テキスト 参考書籍
2	解剖生理・病態知識活用の必要性 データ・情報収集の方法と整理	講義	
3	ゴードンの11の機能的健康パターンについて		
4	データ、情報収集の分析・解釈・判断①		
5	データ、情報収集の分析・解釈・判断②	講義	
6	データ、情報収集の分析・解釈・判断③		
7	データ、情報収集の分析・解釈・判断④	講義	
8	全体の構造化		
9			
10		看護問題の明確化、優先順位の決定 看護目標、看護計画立案、学習支援活動	
11			
12			
13	看護実践、看護過程全体の評価	講義	
14	看護過程のまとめ	講義	
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意： *演習は個人またはグループワークを実施する。 *課題提出状況も評価点に反映される。		評価方法： 筆記試験、課題提出 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野I基礎看護学〔2〕 基礎看護技術I 医学書院 2. 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア			
参考文献／書籍：NANDA-I看護診断 定義と分類 医学書院			
※時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります			

地域・在宅看護論

地域とくらし

家族看護学

地域・在宅看護論Ⅰ

地域・在宅看護論Ⅱ

地域・在宅看護論Ⅲ

地域・在宅看護論Ⅳ

科目名： 地域とくらし	配当時期： 単位数： 時開数：	1年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： 1) 「くらし」・「地域」・「生活」・「健康」という言葉の意味について調べる。 2) 身近な地域の特色を考える。			
科目全体のねらい： 看護職者は、地域包括ケアシステムの発展に貢献することが期待されていることから、住み慣れた地域で最期まで暮らすことを支えることができる人材育成が急務である。そのため、多様な個人と家族の生活を査定する能力や、生活の場としての地域の特性を査定する能力の素地を身に付けることをねらいとする。			
講義目標： 1) 看護からみた地域のとらえ方を理解する。 2) 地域で暮らしている人々の生活とその多様性を理解する。 3) 地域の環境が生活や健康に及ぼしている影響を理解する。 4) 生活や健康をめぐる社会の動向の概要を理解する。 5) 生活と健康を支えるケアとは何かを理解する。 6) 地域における生活と健康を支えるケアの種類を理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	備考
1	I. 地域の人々の生活と健康 A 地域とは B 地域における生活と健康	講義	配布資料 テキスト
2	II. 生活と健康をめぐる動向 A 人口・世帯に関する動向 B 健康に関する動向 C 医療・介護提供体制の方向性	講義	配布資料 テキスト
3	III. 生活と健康を支えるケア A 地域の人々の生活と健康を支えるケア B 人々の住まい	講義	配布資料 テキスト
4	III. 生活と健康を支えるケア C 医療介護福祉ケア D インフォーマルなケア E ケアの連携	講義	配布資料 テキスト
5	地域の特性、人々のくらしとの関連	演習	ICT 機器
6			
7	様々な地域と人々の健康状態との関連	グループワーク	テキスト
8	生活と健康を支えるケアについて	グループワーク 発表	配布資料 テキスト
補足：			
受講上の注意： 事前課題に関しては、必ず準備して出席すること。		評価方法： 試験：70% 課題：30%	
使用するテキスト： 「新体系 看護学全集 地域・在宅看護論」メヂカルフレンド社			
参考書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院			

科目名： 家族看護学	配当時期： 単位数： 時開数：	1年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： 自己の家族の構造、家族背景について考察してみる。			
科目全体のねらい： 健康問題をもつ人と家族の看護支援に役立てるため、家族看護の基本的概念、家族看護のプロセス、家族看護の実践を理解する。			
講義目標： 1) 家族看護の基本的概念について理解し、説明することができる。 2) 家族の発達段階、健康問題について理解し、説明することができる。 3) 家族看護の方法について、実践に結びつける準備ができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	備考
1	1. 家族の定義、機能、発達課題	講義	テキスト
2	2. 健康障害・疾病が家族に及ぼす影響	講義	テキスト
3	3. 家族のアセスメント	講義	テキスト
4	4. 家族介護者への支援	講義	テキスト
5	5. 家族の意思決定支援	講義	テキスト
6	6. 家族看護の実際 ～苦悩する家族への看護～	グループワーク	テキスト
7			テキスト
8	7. まとめ (1) 課題：家族看護を实践する上での課題と対策	個人課題	テキスト
補足： 使用教材として別途資料有り。講義内で配布予定。			
受講上の注意： 演習・グループワーク時は積極的に意見をもって参加すること。		評価方法： 試験：70% 課題：30%	
使用するテキスト： 「新体系 看護学全集 地域・在宅看護論」メヂカルフレンド社			
参考書籍： 森山美知子著：「ファミリーナーシングプラクティス」医学書院 小林奈美著：「グループワークで学ぶ家族看護論－カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ」 医歯薬出版 鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子著：「家族看護学－理論と実践第5版」、日本看護協会出版会			

科目名： 地域・在宅看護論 I	配当時期： 単位数： 時開数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： 今、社会でどのようなことが話題となっているのか、アンテナを高くして新聞やニュースから情報を収集しましょう。(社会の保健医療看護(介護)の情勢および施策について)			
科目全体のねらい： 地域で生活する人々、ひとりひとりが、その人らしくいきいきと暮らせるように支援する、制度や協働、具体的な看護活動および看護職の役割について学習する。			
講義目標： 1) 地域・在宅看護の基盤について理解することができる。 2) 地域・在宅看護を支えるしくみについて理解することができる。 3) 地域・在宅看護の個別支援について理解することができる。 4) 地域・在宅看護のシステムづくりを理解することができる。			
講義計画(全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回	学習内容	方法	使用教材
1	I. 生活と健康を支える地域・在宅看護	講義	テキスト
2	II. 地域・在宅看護の理念	講義	テキスト
3	III. 地域・在宅看護の変遷	講義	テキスト
4	IV. 地域・在宅看護の倫理	講義・演習	テキスト
5	V. 地域・在宅看護に関する制度	講義	テキスト
6			
7	VI. 地域包括ケアシステム VII. 訪問看護の制度と機能	講義	テキスト
8	VII. 訪問看護の制度と機能	講義	テキスト
9	VIII. ケアマネジメント	講義	テキスト
10	X. 療養移行支援	講義	テキスト
11			
12	XI. 地域アセスメントと地域づくり	講義	テキスト
13	XII. 健康づくりと疾病予防のシステム	講義 グループワーク	テキスト 配布資料
14			
15	終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意： 演習・グループワーク時は積極的に意見をもって参加すること。			評価方法： 筆記試験 80% 課題 20%
使用するテキスト： 「新体系 看護学全集 地域・在宅看護論」メヂカルフレンド社			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 市村久美子・島内憲夫編、ヘルスプロモーション新体系看護学全書、メヂカルフレンド社			

科目名： 地域・在宅看護論Ⅱ	配当時期： 単位数： 時開数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： 科目と関連のある既習の内容を復習しておくこと			
科目全体のねらい： 地域で健康障害がありながら生活する人とその家族を対象にし、安全な生活を保障するための方法を理解すると同時に、地域・在宅看護活動の場の特性に応じた看護技術および支援方法を学ぶ。			
講義目標： 1) 地域・在宅看護における活動の場の特徴を理解する 2) 地域における暮らしを支える看護実践の素地を養うことが理解できる 3) 地域・在宅看護における生活支援ができる 4) 地域・在宅看護の対象者は様々な健康レベルにあることを理解できる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	生活を支えるコミュニケーション技術	講義 演習	テキスト 配布資料 視聴覚教材
2	生活を支える地域づくりの技法		
3	生活を支える技術と医療ケア ①食事・栄養に関する援助		
4	②排泄に関する援助		
5	③清潔に関する援助		
6	④移乗・移送に関する援助		
7	学内演習		
8			
9	⑤創傷管理に関する援助		
10	⑥与薬に関する援助		
11	⑦日常生活における事故防止と予防		
12	⑧呼吸管理に関する援助		
13	学内演習		
14			
15	終講試験	筆記	
受講上の注意： GW時は積極的に意見をもって取り組むこと 時間割の都合上、講義の順番・内容が変更になる場合がある			評価方法： 筆記試験 100%
使用するテキスト： 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 3. ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 4. 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社			

科目名： 地域・在宅看護論Ⅲ	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時開数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： 科目と関連のある既習の内容を復習しておくこと			
科目全体のねらい： 地域・在宅看護の対象者の特性とその支援の在り方、ならびに在宅看護における危機管理の原則と基本を学ぶ			
講義目標： 1) 暮らしの中にあるリスクについて学び、看護の役割について理解する 2) 地域・在宅看護におけるインシデント・アクシデントの特徴と対応策を理解する 3) 災害が地域にもたらす影響と対策を理解する 4) 災害看護における地域・在宅看護の役割を理解できる 5) 地域・在宅看護の対象者は様々な健康レベルにあることを理解できる 6) 病気に応じた在宅看護の基本的な支援について理解できる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	地域・在宅看護におけるリスクマネジメント	講義 演習	テキスト 配布資料 視聴覚教材
2	地域・在宅看護における災害マネジメント		
3	災害時における在宅療養者と家族の危機管理		
4			
5	地域・在宅看護と健康障害（在宅療養時期別の看護）		
6	地域・在宅看護におけるエンド・オブ・ライフケアの理解		
7	地域・在宅看護における精神障害を持つ療養者・家族への看護		
8	地域・在宅看護における医療的ケア児・家族への看護		
9	地域・在宅看護における難病療養者・家族への看護		
10	地域・在宅看護における慢性疾患療養者・家族への看護		
11	地域・在宅看護における生活不活発病療養者・家族への看護		
12	地域・在宅看護における認知症療養者・家族への看護		
13	地域・在宅看護における複雑困難事例の看護		
14	地域・在宅看護と介護予防		
15	終講試験	筆記	
補足：講義内容によっては視聴覚教材の使用もある			
受講上の注意： GW時は積極的に意見をもって取り組むこと 時間割の都合上、講義の順番・内容が変更になる場合がある		評価方法： 筆記試験 70% 課題 30%	
使用するテキスト： 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 3. 厚生 の 指針 増刊 国民衛生の動向 2022/2023 一般財団法人厚生労働統計協会 4. 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社			

科目名： 地域・在宅看護論Ⅳ	配当時期： 単位数： 時開数：	2年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： 既習の関連科目の内容を想起し、関連付けながら学習できるように、復習しておくこと。			
科目全体のねらい： 在宅看護の特性をふまえ、在宅療養者とその家族への看護につなげる思考過程と必要な援助方法について学習する。			
講義目標： 1) 在宅看護過程の特徴と看護過程展開の視点が理解できる 2) 在宅看護過程のアセスメントの特徴展開方法を理解し、目標設定から看護計画立案ができる 3) その人らしく生きることを支える地域・在宅看護のあり方について考えることができる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	備考
1	在宅療養者と家族の看護過程展開① 在宅看護過程の基本の特徴、看護過程の展開に必要な枠組み	講義 演習	テキスト 配布資料
2	在宅療養者と家族の看護過程展開② ICFにそって全体像のアセスメント		
3	アセスメント結果からの問題抽出と優先順位の根拠		
4	在宅療養者と家族の看護過程展開④ 看護計画の立案		
5	評価の視点		
6	在宅療養者と家族の看護過程展開⑤ 疾患、療養ごとに考える在宅看護の介入		
7			
8	終講試験	筆記	
補足：参考資料・書籍については、各自必要と思われるものを選択し使用していく			
受講上の注意： 在宅での療養生活に対する理解を深め、療養者とその家族のイメージを膨らませながら学んでいくこと。		評価方法： 試験：60% 課題：40%	
使用するテキスト： 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社			
参考書籍： 1. ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 4. 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 5. 関連図で理解する在宅看護過程 第2版 メヂカルフレンド社			

健康状態別看護

健康回復支援論

薬物療法と看護

周手術期と看護

終末期と看護

健康支援論

看護過程展開論

科目名： 健康回復支援論	配当時期：1年次 後期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 健康障害を持つ対象者の状態に応じた、健康の回復につながる看護を理解する。			
講義目標： 1) 各症状別看護についての基礎知識を理解できる。 2) 事例を通して経過別の看護を考えることができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	患者心理の特徴の理解・病期の特徴と看護の役割理解	講義	テキスト
2	経過別看護 急性期・回復期患者の事例を通して看護を考える	講義	テキスト
3	経過別看護 慢性期患者の事例を通して看護を考える	講義	テキスト
4	症状別看護①呼吸器系（呼吸困難 咳嗽 喀痰 喀血 胸水）	講義	テキスト
5	症状別看護②循環器系（1）（血圧異常 動悸 貧血 出血傾向）	講義	テキスト
6	症状別看護③循環器系（2）（ショック 吐血下血）	講義	テキスト
7	症状別看護④循環器系（3）（浮腫 腹水 脱水）	講義	テキスト
8	症状別看護⑤消化器系（1）（食欲不振 嚥下困難 悪心・嘔吐）	講義	テキスト
9	症状別看護⑥消化器系（2）（便秘 下痢 黄疸 肥満やせ）	講義	テキスト
10	症状別看護⑦脳神経系（頭痛 麻痺 言語障害 意識障害 けいれん）	講義	テキスト
11	症状別看護⑧腎・泌尿器系（血尿 多尿 乏尿 頻尿 尿閉 残尿感）	講義	テキスト
12	症状別看護⑨内分泌・代謝系（血糖異常 発熱 発汗）	講義	テキスト
13	症状別看護⑩運動器系（運動障害 疼痛 ギブス固定 牽引法）	講義	テキスト
14	症状別看護⑪感覚器系（視覚障害 聴覚障害 味覚障害 搔痒感）	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
評価方法： 筆記試験・課題 100%			
使用するテキスト：			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門 基礎看護学4 臨床看護総論，専門分野 II 成人看護学 医学書院			

科目名： 薬物療法と看護	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 健康問題・健康課題に対する特徴的な治療法			
講義目標： 1) 薬物療法の基礎知識を理解する 2) 対象に応じた自己管理方法を考えることができる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	薬物療法と看護の基礎知識 ① 薬物の体内動態と相互作用の理解	講義	テキスト
2	② 薬物の剤形とその特徴に応じた教育指導の理解 ③ 薬物の体内動態とハイリスク患者の看護（化学療法・免疫抑制薬）		
3	対象に応じた自己管理 ① 服薬行動に向けた指導		
4	② 高齢者やその家族に向けた指導 ③ 精神に障害のある対象への指導	講義・演習	テキスト
5	④ 妊婦が薬を服用することへの心理的援助 ⑤ 胎児への影響／危険度／使用時期		
6	⑥ 子どもへの与薬に必要な基礎知識		
7	服薬支援と与薬（社会復帰に向けた自己管理／在宅での服薬管理）薬物療法における看護師の役割理解（事例：認知症高齢者／パーキンソン病／統合失調症／子どもと家族）	講義・演習	テキスト
8			
9			
10	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物管理について（指導案作成）	講義・演習	テキスト
11			
12	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物管理のロールプレイ	講義・演習	テキスト
13			
14	薬物治療における安全管理・ Medikation エラーについて	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用や演習有り。			
受講上の注意： *演習は個人またはグループワークを実施する。その際のグループは1グループ6名前後で編成する。		評価方法： 筆記試験・課題 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院			

科目名： 周手術期と看護	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 周手術期における基本的な看護についての理解を深め、周手術期の過程に応じた看護実践に必要な能力を学ぶ。			
講義目標： 1) 周手術期にある患者の特徴が理解できる。 2) 周手術期にある患者の基本的な看護が理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	周手術期における看護の概要と看護師の役割	講義	テキスト
2	麻酔とは麻酔の種類と術前・中・後の管理	講義	テキスト
3	全身麻酔と局所麻酔の合併症	講義	テキスト
4	手術侵襲と生体反応（ムーアの分類）	講義	テキスト
5	術後合併症の理解	講義	テキスト
6	術前の患者の看護	講義・演習	テキスト
7	術中の患者の看護	講義・演習	テキスト
8	術後の患者の看護①	講義・演習	テキスト
9	術後の患者の看護②	講義・演習	テキスト
10	特殊な術式と術後の看護	講義	テキスト
11	重症集中治療を受ける患者の看護	講義・演習	テキスト
12	高齢者と手術	講義・演習	テキスト
13	小児とその家族と手術	講義・演習	テキスト
14	帝王切開を受ける産婦の看護	講義・演習	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用や演習有り。			
受講上の注意： *演習は個人またはグループワークを実施する。その際のグループは1グループ6名前後で編成する。		評価方法： 筆記試験・課題 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院			

科目名： 終末期と看護	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 後期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師	
事前学習内容： テキストを熟読すること。				
科目全体のねらい： 終末期にある患者および家族のQOLを充実するために必要な知識・技術について学ぶ。				
講義目標： 1) 終末期にある対象者及び家族を身体的・精神的・社会的・霊的側面から総合的に理解できる 2) 終末期にある対象者及び家族の思いや希望にそった日常生活援助ができる。 3) 対象者がよりよく生きるために、全人的苦痛を緩和できる。				
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回	学習内容		方法	使用教材
1	終末期にある対象者の理解 ① 小児における終末期の特徴	・心理的・社会的サポート ・がん相談センターとピアサポート ・エンドオブライフケア ・アドバンスドケアプランニング	講義・演習	テキスト
2	終末期にある対象者の理解 ②成人期における終末期の特徴		講義・演習	テキスト
3	終末期にある対象者の理解 ③老年期における終末期の特徴		講義・演習	テキスト
4	緩和ケア①癌性疼痛		講義・演習	テキスト
5	緩和ケア②非癌患者		講義・演習	テキスト
6	死の受容①子供と家族の死の捉え方		講義・演習	テキスト
7	死の受容②成人期における死の捉え方		講義・演習	テキスト
8	死の受容③高齢者の死の捉え方		講義・演習	テキスト
9	看取りの看護①グリーフケア		講義・演習	テキスト
10	看取りの看護②成人の看取り／臨終時の看護／家族ケア		講義・演習	テキスト
11	看取りの看護③臨死期の対応／家族の参加／家族心理		講義・演習	テキスト
12	看取りの看護④在宅における看取りの看護		講義・演習	テキスト
13	看取りの看護⑤自宅で死を迎えることの意味		講義・演習	テキスト
14	死亡時の看護／死後の処置		講義・演習	テキスト
15	総括／終講試験		筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用や演習有り。				
受講上の注意： *演習は個人またはグループワークを実施する。その際のグループは1グループ6名前後で編成する。			評価方法： 筆記試験・課題 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院				
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院				

科目名：健康支援論	配当時期：2年次 通年 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員	
事前学習内容：テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 人々の健康保持・増進と疾病の予防について学ぶ。			
講義目標： 1) 社会に求められる健康支援活動の意義について理解することができる。 2) 健康支援の方法、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチについて理解することができる。 3) 健康支援のために必要な基礎的理論が理解できる。 4) 理論を活用して、健康支援活動を考えることができる。 (暮らしと健康アセスメントの方法・自己決定支援と権利擁護をふまえた健康マネジメント・多職種の協働)			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	社会の変化に求められる健康支援活動	講義 演習	テキスト
2			
3	健康支援方法：ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ		
4			
5	健康支援に活用する理論：ヘルスビリーフモデル		
6			
7	健康支援に活用する理論：行動変容のステージモデル		
8			
9	健康支援に活用する理論：自己効力理論		
10			
11	権利擁護の意義の看護師の役割		
12			
13	事例の自己決定、権利擁護をふまえたマネジメントの実際について		
14			
15	終講試験		
補足：初回の授業の冒頭で、簡単な科目オリエンテーションを行う			
受講上の注意：講義内容によっては演習あり。		評価方法： 筆記試験：70% 課題提出など：30%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院			
参考文献／書籍：特になし			

科目名：看護過程展開論		配当時期：1年次 後期 単位数：1単位 時間数：15時間	講義担当者：専任教員
事前学習内容： 看護過程方法論で学習した内容を復習していること。個人で事例を展開する。			
科目全体のねらい： 事例を通して、看護過程方法論で学習した知識を活用し、実際に（個人ワーク・グループワーク）看護過程を展開し理解を深める。			
講義目標： 1) 看護過程方法論で学習した内容を基に看護過程を展開し、記述することができる。 2) グループメンバーの意見や考えを傾聴し、自身の中に学習をとり入れることができる。 3) 看護過程における思考過程が理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護過程、基礎知識の復習、課題返却、グループワーク	講義 演習	テキスト 参考書籍 資料
2	グループワーク	演習	
3	グループワーク	演習	
4	グループワーク	演習	
5	グループワーク	演習	
6	グループワーク	演習	
7	発表	演習	
8			
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意： *当校で実際に使用している看護学習記録用紙を用いる。 *冬季休み中、個人ワークの課題あり。 個人ワークの成果物を用いてグループワークを行う。		評価方法：小テスト 個人・グループ課題 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア			
※時間割の都合上、講義の順番・内容が変更になる場合があります			

成人看護学

成人看護学概論

成人看護学援助論Ⅰ

成人看護学援助論Ⅱ

成人看護学援助論Ⅲ

科目名： 成人看護学概論	配当時期： 単位数： 時間数：	1年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。				
科目全体のねらい： 現代の経済・環境の変化はめまぐるしく、そのことに影響を受けている成人の生活・健康問題も複雑多様性を増している。成人の生活と健康に関する基礎的知識を基盤とし、多様な健康状態や健康問題に対する看護のアプローチの基本を学ぶ。				
講義目標： 1) 成人看護学の概要、成人期における看護の役割を理解する。 2) 成人期における対象の特性を理解できる。 3) 成人の生活習慣・ライフスタイルと健康との関係を理解し、健康問題と予防について学ぶ。				
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回	学習内容		方法	使用教材
1	ガイダンス/導入	成人期の生活を考える	講義	テキスト
2	成人の生活と健康	1) 成人と生活：発達段階 2) 生活と健康： 成人に起こりやすい健康障害	講義	テキスト
3	成人への看護アプローチの基本	1) 症状マネジメント 2) チームアプローチ 意思決定支援	講義	テキスト
4				
5	ヘルスプロモーションと看護 健康を脅かす要因と看護 健康生活の破綻とその回復を支援する看護	ヘルスプロモーション 健康問題とその予防行動 急性期にある人への看護	講義	テキスト
6	慢性病とともに生きる人を支える看護 障害がある人の生活とリハビリテーション 人生の最後のときを支える看護	慢性病を持つ人への看護 国際機能分類（ICF） 死の受容過程 ACP	講義	テキスト
7	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 新たな治療法、先端医療と看護/まとめ	療養の場の移行 臓器移植 遺伝・ゲノム医療	講義	テキスト
8	総括／終講試験		筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。				
評価方法： 筆記試験： 80% GW 成果物： 20%				
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院				
参考文献／書籍： 1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

科目名： 成人看護学援助論 I 慢生期	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 慢性疾患等、生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を理解し、その状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
講義目標： 1) 慢性疾患をもつ対象とその家族を理解できる。 2) 慢性疾患をもつ対象とその家族への看護の特徴を理解できる。 3) 慢性疾患における症状コントロール・機能障害とセルフマネジメントについて理解できる。 4) 呼吸機能・代謝・腎機能・消化機能の障害等がある対象の看護が理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	慢性疾患をもつ対象とその家族の特徴と看護の特徴	講義	テキスト
2	慢性疾患におけるセルフマネジメント	講義	テキスト
3	循環機能障害がある対象の看護	講義	テキスト
4	（慢性心不全 弁膜症 不整脈 心筋炎 心膜炎）	講義	テキスト
5	呼吸機能障害がある対象の看護（COPD 肺炎）	講義	テキスト
6	脳神経機能障害がある対象の看護（脳梗塞 髄膜炎 脊髄損傷）	講義	テキスト
7		講義	テキスト
8	消化機能障害がある対象の看護（肝がん/肝硬変 膵炎 胆嚢炎 潰瘍性大腸	講義	テキスト
9	炎 クロウン病 胃十二指腸潰瘍 逆流性食道炎）	講義	テキスト
10	腎機能障害がある対象の看護（慢性腎不全 慢性糸球体腎炎）	講義	テキスト
11	運動機能障害がある対象の看護（関節リウマチ 四肢切断）	講義	テキスト
12	代謝障害がある対象の看護（糖尿病 甲状腺疾患 副腎疾患）	講義	テキスト
13	生体防御機能に障害のある対象の看護（造血幹細胞移植 HIV/AIDS 膠原病）	講義	テキスト
14	その他患者の看護（男性生殖器 中途視覚障害/網膜剥離/白内障）	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
評価方法： 筆記試験： 100%			
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門 成人看護学（呼吸・循環等） 医学書院 2. 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院			

科目名： 成人看護学援助論Ⅱ 急性期・回復期	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 急激な健康破綻を来した対象やその家族を理解し、健康破綻からの回復を促進する看護の役割と方法を学ぶ。また、障害を持ちながら生活する対象やその家族を理解し、回復期にある対象やその家族のリハビリテーションを中心とした看護について学ぶ。			
講義目標： 1) 急性期状態にある対象やその家族の特徴を理解できる。 2) 急性期にある対象やその家族の、健康破綻からの回復を促進する看護の役割と方法を学ぶ。 3) 回復期、障害を持ちながら生活する対象やその家族の特徴を理解できる。 4) 回復期にある対象やその家族の看護の役割と方法を学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	健康の急激な破綻とその回復を支援する	講義	テキスト
2	循環器に障害のある患者の看護（虚血性心疾患 ASO）	講義	テキスト
3	脳神経機能の障害のある患者の看護（脳卒中 頭部外傷）	講義	テキスト
4	脳神経機能の障害のある患者の看護（脳腫瘍 下垂体腫瘍）	講義	テキスト
5	呼吸器に障害のある患者の看護（肺がん 気胸）	講義	テキスト
6	消化器に障害のある患者の看護（食道がん 胃がん 大腸がん 直腸がん）	講義	テキスト
7	消化器に障害のある患者の看護（膵臓がん 肝がん 胆嚢がん 胆管がん）	講義	テキスト
8	腎・泌尿器に障害のある患者の看護（腎細胞がん 膀胱がん 前立腺がん 尿路結石）	講義	テキスト
9	運動器に障害のある患者の看護（大腿骨頸部骨折 変形性膝関節症 頸椎症 腰部脊柱管狭窄症）	講義	テキスト
10	その他患者の看護（喉頭がん 女性生殖器：乳がん 子宮疾患 卵巣疾患）	講義	テキスト
11	女性生殖器の障害①	講義	テキスト
12	女性生殖器の障害②	講義	テキスト
13	女性生殖器の障害③	講義	テキスト
14	女性生殖器の障害④	講義	テキスト
15	終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
評価方法： 筆記試験： 100%（障害のある患者の看護 70%、女性生殖器の障害 30%）			
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（呼吸・循環・女性生殖器等） 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（呼吸・循環・脳神経・腎泌尿器・消化器等） 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			

科目名： 成人看護学援助論Ⅲ 看護過程	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 後期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストや資料を熟読すること。			
科目全体のねらい： 成人期の特徴を踏まえ、事例を通して健康障害をもつ対象者の看護過程の展開を学ぶ。			
講義目標： 1) セルフマネジメントが必要な対象者の看護過程が展開できる。 2) 周手術期にある対象者の看護過程が展開できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	内分泌代謝疾患患者の事例展開① データベース・ゴードン 11 項目	講義・演習	テキスト 参考書籍
2	内分泌代謝疾患患者の事例展開② 全体関連図	講義・演習	テキスト 参考書籍
3	内分泌代謝疾患患者の事例展開③ 看護計画	講義・演習	テキスト 参考書籍
4	内分泌代謝疾患患者の事例展開④ 指導計画	講義・演習	テキスト 参考書籍
5	周手術期患者の事例展開① 周手術期患者の病態関連図	講義・演習	テキスト 参考書籍
6	周手術期患者の事例展開② アセスメント	講義・演習	テキスト 参考書籍
7	周手術期患者の事例展開③ 看護計画	講義・演習	テキスト 参考書籍
8	まとめ	講義・演習	テキスト 参考書籍
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
評価方法： 個人による：100% 事例展開			
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学（各臓器別） 医学書院			
参考文献／書籍： 1. ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 照林社 2. アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 3. 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 4. NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院			

老年看護学

老年看護学概論

老年看護学援助論Ⅰ

老年看護学援助論Ⅱ

科目名： 老年看護学概論	配当時期：1年次 後期 単位数：1単位 時間数：15時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 老年看護学の対象となる高齢者を、社会的存在の生活者として理解するために、身体の高齢変化のみならず、その人の人生や影響を受けた社会変動、環境など多面的・総合的に理解し、高齢者の健康と生活を支える専門職としての基本的姿勢や考え方、知識を養う。			
講義目標： 1) 加齢に伴う身体的、精神的、社会的な変化を理論やモデルを通して理解する 2) 高齢者の健康課題について説明できる 3) 高齢者を支える保健・医療・福祉システムについて理解する 4) 高齢者の権利擁護について知り、その権利を守る制度について理解する 5) 高齢者看護の役割について理解できる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	高齢者の理解①（ライフサイクル、発達課題、統計データからみた理解）	講義	テキスト 配布資料
2	高齢者の理解②（加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化からの理解）	講義	
3	加齢に伴う変化と生活への影響（高齢者疑似体験）	演習	
4			
5	高齢社会における保健・医療・福祉の動向	講義	
6	高齢者看護に有用な理論や概念	講義	
7	高齢者の権利擁護と倫理的課題	講義	
8	総括／終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意： *校内実習時は、実習室オリエンテーションの内容を理解し、決められたルールを遵守すること。		評価方法： 筆記試験：80% 演習課題：20%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論、医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学、医学書院			
参考書籍： 1. ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 2. 厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2022/2023			
※時間割の都合上、講義の順番が変更になる場合があります			

科目名： 老年看護学援助論 I	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 高齢者は歴史を積み重ね、その人生のうえに生活している。加齢変化による身体的・精神的な健康上の課題、老年期の特徴的な健康問題から日常生活動作が困難となり、様々な弊害が起こりやすくなる。このような特徴を持つ高齢者を多面的、総合的にとらえ、高齢者の健康と生活を支えるための知識・基本的姿勢を養う。			
講義目標： 1) 「超高齢社会」における老年看護の役割、携わる者の責務について理解できる 2) 高齢者の疾患と特徴が理解できる 3) 高齢者の特徴を踏まえた看護と姿勢について理解できる			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	「超高齢社会」における老年看護の期待	講義	テキスト 配布資料
2	老年症候群・高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	演習	テキスト 配布資料
3	高齢者の疾患の特徴・看護（認知症）	講義	テキスト 配布資料
4	老年症候群①②	講義	テキスト 配布資料
5	高齢者の疾患と特徴・看護（精神・神経疾患）	講義	テキスト 参考書籍 配布資料
6	高齢者の疾患と特徴・看護（循環器系の疾患）	講義	テキスト 配布資料
7	高齢者の疾患と特徴・看護（呼吸器系の疾患）	講義	テキスト 配布資料
8	高齢者の疾患と特徴・看護（消化器系の疾患・内分泌・代謝系の疾患）	講義	テキスト 配布資料
9	高齢者の疾患と特徴・看護（自己免疫疾患・血液疾患・腎・泌尿器の疾患）	講義	テキスト 参考書籍
10	高齢者の疾患と特徴・看護（運動器の疾患）	講義	テキスト 配布資料
11	高齢者の疾患と特徴・看護（皮膚の疾患・感覚器の疾患・歯・口腔の疾患・感染症）	講義	テキスト 配布資料
12	高齢者と薬剤	講義	テキスト 配布資料
13	高齢者の在宅医療とエンド・オブ・ライフケア	講義	テキスト 配布資料
14	高齢者のリスクマネジメント	講義	テキスト 配布資料
15	総括／終講試験	筆記	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 疾病・疾患論 医学書院		評価方法： 筆記試験：70% 演習成果物：30%	
参考文献／書籍／DVD：NHKスペシャル「人体 “生命誕生”」 プロフェッショナル「認知症介護のプロ登場」「がん看護専門看護師 田村恵子の仕事」 テイジン「在宅での呼吸器管理」 認知症の理解と介護～認知症の人の世界を理解し、よい介護をするために～川崎幸クリニック杉山孝博院長 ペコロスの母に会いに行く 岡野雄一 訪問歯科ポスター集 日本訪問歯科協会 ザ・ベスト ホームエクササイズ 聖マリアンナ医科大学病院 森尾裕志			
※時間割の都合上、講義の順番、方法が変更になる場合があります			

科目名： 老年看護学援助論Ⅱ 看護過程	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 15時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 高齢者の加齢に伴う特徴をふまえ、看護過程を展開して、健康障害をもつ高齢者の看護を学ぶ。			
講義目標： 1) 高齢者の加齢に伴う変化を理解することができる。 2) 高齢者の特徴と病態生理を統合して対象のアセスメントができる。 3) 高齢者における看護問題を理解することができる。 4) 対象に合わせた看護計画を立案することができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	健康障害をもつ高齢者の理解・看護過程の特徴 高齢者に特有な疾患に罹患した高齢者の事例展開①	講義	テキスト 配布資料
2	健康障害をもつ高齢者の理解・看護過程の特徴 高齢者に特有な疾患に罹患した高齢者の事例展開②		
3	健康障害をもつ高齢者の理解・看護過程の特徴 高齢者に特有な疾患に罹患した高齢者の事例展開③		
4	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開 情報収集、分析解釈の視点	演習	
5	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開 全体像での患者の把握と看護上の問題の明確化		
6	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開 患者の強みを活かした看護計画の立案		
7	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開 個別性のある援助、援助の評価、計画の追加、修正		
8	総括・事例展開発表	発表	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意： *演習は個人またはグループワークを実施する。		評価方法： 看護過程個人課題：70% 演習課題：30%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 運動器、医学書院			
参考文献／書籍： 1. ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 照林社 2. アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院 3. 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 4. NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院			

小児看護学

小児看護学概論

小児看護学援助論Ⅰ

小児看護学援助論Ⅱ

科目名： 小児看護学概論	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： 受講前に「人間発達学」の小児の発達（形態・機能的側面）について復習しておくこと		
科目全体の狙い： 子どもの成長・発達の基礎知識、健康増進のための子どもと家族への看護を学習し、小児看護の特徴・役割を学ぶ。		
講義目標： 1) 子どもと家族を取り巻く環境、小児看護の変遷・役割について理解できる。 2) 子どもの尊厳と権利について学び、小児看護領域における権利について理解できる。 3) 子どもの成長・発達の特徴と発達評価を身体・精神・社会的側面から理解することができる。 4) 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護を、基本的日常生活を通し学ぶ。 5) 健康障害や入院が、子どもと家族に及ぼす影響と看護について理解できる。		
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）		
回	学習内容	方法
1 2	1. 小児看護の特徴と理念 1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割 2. 子どもと家族を取り巻く環境 1)小児医療・看護の変遷と課題 2)子どもの権利 3)子どもと家族を取り巻く社会資源の活用	講義
3 4 5 6	3. 子どもの成長・発達 1)成長発達の原則と影響因子 2)成長発達評価 3)新生児(1)形態的・身体生理の特徴 (2)成長発達評価 (3)養育及び看護 4)乳児 (1)形態的特徴 (2)身体生理の特徴 (3)感覚機能 (4)運動機能 (5)知的機能 (6)情緒・社会的機能 (7)成長発達評価 (8)養育及び看護 5)幼児 (1)形態的特徴 (2)身体生理の特徴 (3)感覚機能 (4)運動機能 (5)知的機能 (6)情緒・社会的機能 (7)成長発達評価 (8)養育及び看護 6)学童 (1)形態的・身体生理の特徴 (2)感覚・運動機能 (3)知的・情緒・社会機能 (4)不適応行動・症状 (5)学童を取り巻く諸環境 (6)養育及び看護 7)思春期・青年期 (1)形態的・身体生理の特徴 (2)知的・情緒・社会的機能 (3)生活の特徴 (4)心理・社会的適応に関する問題 (5)思春期の看護	講義 演習
7 8 9	4. 子どもと家族の健康増進への看護 1)栄養と食生活 2)事故防止と安全教育 3)感染症と予防 4)セルフケアと保健教育	講義
10 11 12	5. 特別な状況にある子どもと家族への看護 1)虐待を受けている子どもと家族への看護 2)災害を受けた子どもと家族への看護 3)心身障害のある子どもと家族への看護	講義
13 14	6. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 1)病気に対する子どもの理解と説明 2)病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護	講義
15	総括／終講試験	
評価方法：筆記試験・課題 100%		
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院.		
参考文献／書籍：		

科目名： 小児看護学援助論 I	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： シラバスを読み、各授業前に学習内容を確認し、テキストなどで予習を行う。			
科目全体のねらい： 健康障害が子どもの成長発達や日常生活、家族に与える影響を理解し、様々な状況にある子どもと家族に対する健康上の問題を捉え、発達段階に応じた看護援助や家族へのかかわりについて学ぶ。			
講義目標： 1) 急性症状を示しやすい生理的特徴・発達的特徴を理解しバイタルサイン測定の方法を理解する。 2) さまざまな症状を呈する子どもと家族の看護について理解できる。 3) さまざまな状況にある子どもと家族の看護について理解できる。 4) 小児看護における倫理・子どもの権利について考えることができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1 2 3 4 5	事故・外傷と看護 頭部外傷・誤飲・誤嚥・溺水・熱傷 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期とは何か 2) 急性期症状を示しやすい小児の生理的・発達的特徴・フィジカルアセスメント 小児に多い症状、健康障害を持つ看護 3) 発熱 4) 脱水 5) 呼吸困難 6) 痙攣 7) 嘔吐 8) 下痢 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・胃腸炎・髄膜炎・ネフローゼの患児の看護	講義	テキスト
6 7	周手術期にある子どもと家族の看護 胆道閉鎖症・ファロー四徴症 1) 小児期の手術の特徴 2) 手術を受ける子どもの反応 3) 手術を受ける子どもの家族の反応 4) 術前の看護（プレパレーション） 5) 術後の看護	講義	テキスト
8	慢性期にある子どもと家族の看護 1型糖尿病 1) 慢性期の特徴 2) 慢性状態が子どもに与える影響 3) 子どもと家族の看護	講義	テキスト
9	終末期にある子どもと家族の看護 悪性新生物 1) 終末期の特徴 2) 子どもの生命・死についてのとらえ方 3) 子どもと家族の看護	講義	テキスト
10	低出生体重児の看護 1) 低出生体重児の看護 2) 胎外生活の適応を支える看護 3) 成長発達を支える看護	講義	テキスト
11 12	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 採血 採尿・採便 穿刺（骨髄・腰椎） 与薬 注射・輸液・安全安楽への援助	講義	テキスト
13 14	小児看護における倫理について 子どもの権利・児童の権利条約	演習	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
受講上の注意：時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります 援助計画書（手順書）を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。		評価方法：課題・筆記試験 100%	
使用するテキスト：看護が見える vol 3 フィジカルアセスメント 系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院. 系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学 2 小児看護学各論. 医学書院.			
参考文献／書籍：根拠と事故防止からみた小児看護学技術			

科目名： 小児看護学援助論Ⅱ	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 15時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： シラバスを読み、各授業前に学習内容を確認し、テキストなどで予習を行う。 小児看護学概論・援助論Ⅰの復習をしておく。			
科目全体のねらい： 子どもの成長発達を促し、健康を維持するために必要な技術に関する基礎的知識と実践力を習得する。 また、疾病や障がいがある子どもと家族を理解し、健康問題を解決する看護過程の展開を修得する。			
講義目標： 1) 小児看護に特徴的な基本援助技術を理解し、子どもの発達段階に応じた援助が実践できる。 2) 事例をもとに子どもと家族に対する看護過程の展開（アセスメント・看護計画・援助方法など）することができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1 2	1. 事例による看護過程の展開	講義 学内実習	テキスト
3 4	2. 小児看護における基本援助技術 1) 小児ベットの取り扱い 2) バイタルサイン測定 3) 身体計測 4) 輸液管理 他	講義	テキスト DVD
5 6 7	3. 事例による看護過程の展開 1) 情報収集 2) 発達段階を捉えたアセスメント 3) 看護目標 4) 看護計画（子どもの権利擁護と発達支援） プレパレーション(目的・種類・方法・実際・評価) 5) 実施 6) 評価	演習 GW	
8	総括／終講試験	課題提出 筆記試験	
補足：			
受講上の注意：時間割の都合上、講義の順番や内容が変更になる場合があります 援助計画書（手順書）を作成し所定のファイルにファイリングして臨むこと。		評価方法： 筆記試験・課題 100%	
使用するテキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院。 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学2 小児看護学各論 医学書院。			
参考文献／書籍：発達段階から見た小児看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護学技術 医学書院			

母性看護学

母性看護学概論

母性看護学援助論 I

母性看護学援助論 II

科目名： 母性看護学概論	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てる可能性のある女性、および過去においてその役割を果たした女性のみならず、生涯を通じて性と生殖に関する健康を守るという観点から、女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもが生まれるあるいは乳幼児を育てる家庭、その家族が生活する地域社会も含まれる。このような対象者に看護を実践するうえで必要な知識を理解し、次世代の健全育成を目指す母性看護の基本的概念について学ぶ。			
講義目標： 1) 母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。 2) 母性看護の対象を理解し、女性のライフステージ各期における看護について学ぶ。 3) リプロダクティブヘルスケアに関する概念、世界・日本の動向、倫理、法や施策と支援について学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	母性看護の基盤となる概念①	講義	テキスト
2	母性看護の基盤となる概念②	講義	テキスト
3	性と生殖に関する倫理的課題	講義	テキスト
4	母性看護における倫理・安全・事故予防	講義・GW	テキスト
5	母性看護の歴史的変遷と現状 母子保健統計	講義	テキスト
6	母性看護にかかわる法律と施策 母性看護の提供システム 国際化社会と看護	講義	テキスト
7	女性のライフサイクルと家族 ライフサイクルにおける女性の健康と看護	講義	テキスト
8	思春期女性の特徴	講義・GW	テキスト
9	思春期の健康問題と看護	講義	テキスト
10	成熟期の特徴	講義・GW	テキスト
11	成熟期の健康問題と看護 家族計画、受胎調節法	講義	テキスト
12	更年期・老年期の特徴	講義	テキスト
13	更年期・老年期の健康問題と看護	講義	テキスト
14	リプロダクティブヘルスケア	講義・GW	テキスト
15	終講試験	筆記	
補足：			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院			
参考文献／書籍： 1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

科目名： 母性看護学援助論 I 健康の維持・増進と看護	配当時期： 2年次 前期 単位数： 1単位 時間数： 30時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 妊娠・分娩・産褥期の変化は病気ではなく生理的変化である。看護職は、妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族が正常に経過するようアセスメントし、異常の早期発見に努め、正常から逸脱をしないよう看護を実践していく役割がある。そこで、妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族の身体的・心理的・社会的特徴および正常経過について学び、理解を深める。正常に経過するように援助するためには、生理的経過を逸脱していないかの判断や合併症の早期発見のため、疾病についての知識を要する。また、この時期にある対象は、予見できない異常や正常からの逸脱が発生する可能性があり、母子の生命に関わることやその後の生活へも影響を与える。そのため、正常経過とともに異常時の状態にある対象の看護について学んでいく。			
講義目標： 1) 母性のライフサイクルについて、妊娠準備期から出産後の育児期まで理解できる。 2) 妊娠、分娩、産褥、新生児期の正常経過を理解できる。 3) 正常な経過をたどる妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象に対する看護がわかる。 4) 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象と家族に起こりやすい健康問題と看護の特徴について理解できる。 5) 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象の観察、アセスメントの視点について学ぶ。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	正常な妊娠の経過	講義	テキスト
2	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント 妊婦と家族への看護	講義	テキスト
3	妊娠期の異常と看護 切迫流産、切迫早産、妊娠期の感染症、 前置胎盤、妊娠悪阻、妊娠貧血、 糖代謝異常妊娠、妊娠高血圧症候群	講義	テキスト
4			
5	正常な分娩の経過	講義	テキスト
6	産婦・胎児の健康と生活のアセスメント 産婦と家族への看護	講義	テキスト
7	分娩の異常と看護 前期破水、胎児機能不全、陣痛異常、吸引分娩 帝王切開術、産科出血、常位胎盤早期剥離	講義	テキスト
8			
9	褥婦の健康と生活のアセスメント 褥婦と家族への看護	講義	テキスト
10	産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥熱、乳房トラブル マタニティブルーズ、産後うつ病 児を亡くした褥婦・家族への看護	講義	テキスト
11			
12	早期新生児の特徴と生理	講義	テキスト
13	早期新生児の健康と発育のアセスメント 早期新生児と家族への看護 施設退院後の母子の看護	講義	テキスト
14	新生児の異常と看護 新生児仮死、低出生体重児、高ビリルビン血症 新生児ビタミンK欠乏性出血症	講義	テキスト
15	終講試験	筆記	
補足： 講義の内容によっては視聴覚教材の使用あり。			
受講上の注意：		評価方法：筆記試験	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 母性看護学援助論Ⅱ 看護過程	配当時期： 2年次 後期 単位数： 1単位 時間数： 15時間	講義担当者： 専任教員	
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 妊娠・分娩・産褥の変化は病気ではなく生理的变化であり、多くの女性は正常なプロセスをたどる。妊娠・分娩・産褥期など「マタニティサイクル」にある対象に焦点を当てて看護を展開する母性看護領域では、対象に問題はないが、正常から逸脱の有無の観察や保健指導など看護の必要性はあり、「問題点を発見し目標を設定することによって問題を解決していく【問題志向型】の看護の視点」ではなく、「今この人はどういう状態にあるか、あるいはどういう方向に進もうとしているのかに焦点を当て、より良い変革の方向へ目を向ける【ヘルスプロモーション型】の看護の視点」が必要となる。そこで、このような視点を踏まえ、事例を通して母性看護に必要な看護過程の展開及び母性看護に必要な看護技術について学ぶ。			
講義目標： 1) 産褥期・育児期における母子のアセスメントができ、総合的に対象を理解できる。 2) 事例を通して、産褥期・育児期にある対象とその家族に対する看護過程が展開できる。 3) 事例を通して、新生児期にある対象とその家族に対する看護過程が展開できる。 4) 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象への安全・安楽に必要な看護技術を実践できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品 等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	母性看護領域の看護過程の特徴 ヘルスプロモーション型看護診断	講義	テキスト
2	看護過程の実際（産褥期・新生児期） 妊娠経過・分娩経過、産褥期・新生児期における看護過程の全体 （情報収集、アセスメント視点、実践、評価方法）	講義	テキスト
3	看護過程の展開（産褥期・新生児期）①	講義・演習	テキスト
4	看護過程の展開（産褥期・新生児期）②	講義・演習	テキスト
5	産褥期における保健指導 （保健指導案・パンフレットの作成）	演習	テキスト
6	産褥期における保健指導の実施	演習	テキスト
7	妊娠期の看護技術 （レオポルド触診法・胎児心音聴取） 産褥期の看護技術 （褥婦の全身観察、授乳姿勢） 新生児期の看護技術 （新生児の観察・計測）	演習	
8	総括 事例検討、事例解説、質疑応答	講義	
補足： 講義の内容によっては視聴覚教材の使用あり。			
受講上の注意： * 演習は個人またはグループワークを実施する。その際のグループワークは1グループ6名前後で編成する。 * 提出状況も評価点に反映される。 * 演習は実習室②で実施する。 * 新生児モデル人形等、使用する物品の取り扱いについては、教員の指示に従うこと。		評価方法： 演習成果物： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院			
参考文献／書籍：			

精神看護学

精神看護学概論

精神看護学援助論Ⅰ

精神看護学援助論Ⅱ

科目名： 精神看護学概論	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 年々社会の変化はめまぐるしく、精神看護の対象となる人々も場も大きく様変わりしてきた。精神科で治療を受ける人々のほかにも、様々な精神健康上の問題を抱え、ケアを必要とする人々が増え、そのニーズも多様化してきている。今では一般診療科、さらには地域における施設や組織などで精神看護が必要とされる時代となっている。精神看護の変遷を概観し、精神の健康の保持・増進および回復を目指す精神看護の基本的概念について学ぶ。			
講義目標： 1) 精神看護の基本的概念を理解できる。 2) 人間の心の発達と心の健康、各成長発達段階の課題や危機、諸理論について理解できる。 3) 精神看護の場と多職種との連携について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	精神看護の目的と役割	講義	テキスト
2	精神機能とその障害	講義	テキスト
3	心の知能指数（EQ）①	講義	テキスト
4	心の知能指数（EQ）②	講義	テキスト
5	ストレスマネジメント／危機理論	講義	テキスト
6	感性を磨く技法①	講義	テキスト
7	感性を磨く技法②	講義	テキスト
8	ライフサイクルと精神保健①	講義	テキスト
9	ライフサイクルと精神保健②	講義	テキスト
10	看護カウンセリング	講義	テキスト
11	リエゾン精神看護	講義	テキスト
12	精神看護領域の看護理論／看護モデル／法制度	講義	テキスト
13	家族機能・家族のメンタルヘルス	講義	テキスト
14	地域精神保健活動と看護	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名：精神看護学援助論Ⅰ 健康障害と看護		配当時期：2年次 前期 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員
事前学習内容：テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 健康障害をもつ人と家族を包括的に理解し、精神障害の健康段階に応じた看護を学習する。			
講義目標： 1) 精神障害をもつ人の生活行動上の問題や症状に対する看護を理解する。 2) 精神障害をもつ人の生活の特徴と特徴と家族を含めた看護を理解する。 3) 精神障害をもつ人の治療過程に応じた看護を理解する。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	精神科領域：解剖生理、症状	講義 演習	テキスト
2	精神科コミュニケーション		
3	サバイバーとしての精神障害をもつ人とそのケア		
4	地域生活を支えるシステムと社会資源		
5	治療的環境とリカバリー(回復を助ける)		
6	リスクマネジメント(安全を守る)		
5	精神看護① 経過別看護、精神療法・認知行動療法と看護		
7	精神看護② 身体療法と看護、環境(社会)療法と看護		
8			
9	精神看護③ レクリエーション企画・実施・発表会		
10			
11	精神看護④ 身体的ケア、精神科フィジカルアセスメント		
12			
13	精神科フレームワークとセルフケア・アセスメント		
14	まとめ		
15	終講試験	筆記	
補足：初回の授業の冒頭で、簡単な科目オリエンテーションを行う			
受講上の注意：講義内容によっては演習あり。		評価方法： 筆記試験：80% 課題提出など：20%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院			
参考文献／書籍：特になし			

科目名：精神看護学援助論Ⅱ 看護過程	配当時期：2年次 後期 単位数：1単位 時間数：15時間	講義担当者：専任教員	
事前学習内容：テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい：精神看護における基本的な精神の健康増進・回復への援助技術を習得する。			
講義目標： 精神疾患をも事例を通し、看護過程の展開を学習することができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護過程の展開 (オレム・アンダーウッド セルフケアモデルを用いる)の方法	講義 演習	テキスト
2	アセスメントシートにて情報の分析・解釈①		
3	アセスメントシートにて情報の分析・解釈② セルフケアレベルの判断		
4	関連図にて全体像把握		
5	看護上の問題の優先度決定、看護目標設定		
6	看護計画、評価方法		
7	個人ワークの内容を発表		
8	看護過程の展開成果物の提出		
補足：初回の授業の冒頭で、簡単な科目オリエンテーションを行う			
受講上の注意：講義内容によっては演習あり。		評価方法： 出席・個人ワーク・グループ ワーク(出席含)：20% 発表会：10% 成果物：70%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院			
参考文献／必要に応じて提示します。			

看護の統合と実践

医療安全

看護管理

看護研究

災害看護・国際看護

看護実践マネジメント

科目名： 医療安全	配当時期： 単位数： 時間数：	2年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 医療を担うためには、医療安全管理や医療倫理の視点で、対象とその家族に対応しなければならない。安全で質の高い医療・看護を提供するために、医療安全の基礎知識を学ぶ。			
講義目標： 1) 医療安全と看護の責務が理解できる。 2) 事例検討を通し、事故が起きる要因と事故防止について理解できる。 3) 自己の傾向（思考・判断・行動）を知り、対策を考えることができる。 4) 組織として、感染管理を含む安全管理について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	医療事故と看護業務	講義	テキスト
2	患者に投与する業務における事故防止	講義	テキスト
3	内服与薬業務・経管栄養業務と事故防止	講義	テキスト
4	診療の補助の事故防止	講義	テキスト
5	療養上の世話の事故防止	講義	テキスト
6	転倒・転落事故防止	講義	テキスト
7	摂食中の窒息・誤嚥事故防止／入浴中の事故防止	講義	テキスト
8	業務領域を超えて共通する患者間違い	講義	テキスト
9	多重課題・タイムプレッシャーと中断／危険な思い込みと行動パターン	講義	テキスト
10	コミュニケーション（医療事故防止）	講義	テキスト
11	職業感染／抗がん剤の曝露防止／放射線被爆	講義	テキスト
12	ラテックスアレルギー／院内暴力	講義	テキスト
13	組織的な安全管理体制への取り組み	講義	テキスト
14	医療安全対策の国内外の潮流	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 看護管理	配当時期： 単位数： 時間数：	3年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 高度な科学技術の進展が私たちの生活様式を一変させ、多様なヘルスケアニーズに対応することが医療従事者にも求められている。個人、家族、地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスの提供を目指すことは時代の要請に応えることになる。看護師として、チーム医療及び他職種との共同のなかでメンバー・リーダーシップを理解し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。			
講義目標： 1) 看護管理の基礎的知識を理解できる。 2) 病院組織における看護部門の組織、役割、機能を学び、看護マネジメントを理解できる。 3) チームにおけるメンバー・リーダーシップ、他職種との協働について理解できる。 4) 看護の動向と看護行政について理解し、看護の今後の課題について考えることができる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護管理とは／看護マネジメント／プロセス／リスボン宣言/IC	講義	テキスト
2	セーフティマネジメント／6R／ヒヤリハット	講義	テキスト
3	院内感染対策／感染性廃棄物／針刺事故	講義	テキスト
4	大地震の教訓から学ぶ災害対策／DMAT／トリアージ	講義	テキスト
5	チーム医療／ありのままの記録とは／看護サービスマネジメント	講義	テキスト
6	看護サービス（ケア提供システム）	講義	テキスト
7	看護を取り巻く諸制度／介護保険制度の申請～利用の流れ	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用有り。			
受講上の注意：			評価方法： 筆記試験： 100%
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名： 看護研究	配当時期： 単位数： 時間数：	3年次 前期 1単位 15時間	講義担当者： 専任教員
事前学習内容： テキストを熟読すること。 既習の情報通信技術（ICT）を想起し、端末操作に慣れておくこと。			
科目全体のねらい： 質の良い看護を提供するために、専門職として優れた観察力と判断力をもち、既習の看護の知識・技術を探究する必要がある、看護実践を科学的に研究していくための看護研究の意義、基礎知識を学ぶ。 さらに、臨地実習で実践した看護を評価し、事例研究としての一連の過程を学ぶ。			
講義目標： 1) 看護研究の意義・目的・方法が理解できる。 2) 文献検索及び文献検討の方法が理解できる。 3) 研究方法の過程が理解できる。 4) 看護研究における基礎知識が理解できる。 5) 事例研究における一連の過程（研究計画・論文・抄録・発表）を実践できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	看護研究の基礎／看護研究への期待	講義	テキスト
2	研究における一連の過程①リサーチクエスション／附報と文献	講義	テキスト
3	研究における一連の過程②倫理的配慮／研究デザインの選択	講義	テキスト
4	研究における一連の過程③研究計画の立案／情報収集・分析	講義	テキスト
5	事例研究①事例研究とは／事例研究とケースレポートの違い	講義	テキスト
6 7	事例研究②事例研究における一連過程（研究計画・論文・抄録・発表）	講義	テキスト
8	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用や演習有り。			
受講上の注意： ＊情報処理室の端末を使用する際は大切に扱うこと。 ＊端末は共有して使用するため、個人で作成したファイルの保存は外部記憶装置（USBストレージ等）にすること。		評価方法： 1. 課題 2. 論文・事例研究発表： 100%	
使用するテキスト：			
参考文献／書籍：1. 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院			

科目名： 災害看護・国際看護	配当時期： 単位数： 時間数：	3年次 前期 1単位 30時間	講義担当者： 外部講師
事前学習内容： テキストを熟読すること。			
科目全体のねらい： 地球温暖化に伴う気候変動等の影響もあり、災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は人々の健康に関わる看護の専門職として、役割を発揮していくことが求められている。災害看護を理解し、災害直後から支援できる看護実践の基礎について学ぶ。各国の出来事は相互に影響を及ぼしあい、決して一つの国の出来事では収まらない状況にある。地球を守り、人類全体が健康に生きていくためにも、国際救援活動と国際看護学における看護の役割について学ぶ。			
講義目標： 1) 災害医療・災害看護の概要が理解できる。 2) 災害サイクルに応じた看護活動が理解できる。 3) 災害時に必要な基本技術が理解できる。 4) 国際救援活動と国際看護における看護の役割について理解できる。			
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回	学習内容	方法	使用教材
1	災害医療の基礎知識①災害の定義・種類と健康障害／災害医療の特徴	講義	テキスト
2	災害医療の基礎知識②災害看護の定義と役割、対象、特徴と看護活動	講義	テキスト
3	災害サイクルに応じた災害看護	講義	テキスト
4	被災者特性に応じた災害看護の展開	講義	テキスト
5	災害とこころのケア	講義	テキスト
6	地域災害看護の展開①発災直後から出動まで	講義	テキスト
7	地域災害看護の展開②急性期・亜急性期	講義	テキスト
8	国際看護概論	講義	テキスト
9	開発途上国の状況	講義	テキスト
10	SDGSの詳細／WHOの説明	講義	テキスト
11	世界の感染症	講義	テキスト
12	国際緊急救援	講義	テキスト
13	国際看護まとめ VTR	講義	テキスト
14	国際看護まとめ	講義	テキスト
15	総括／終講試験	筆記	
補足： 講義内容によっては視覚教材の使用や演習有り。			
受講上の注意：		評価方法： 筆記試験： 100%	
使用するテキスト： 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院			
参考文献／書籍：			

科目名：看護実践マネジメント	配当時期：3年次 通年 単位数：1単位 時間数：30時間	講義担当者：専任教員			
事前学習内容：テキストを熟読すること。					
科目全体のねらい： 既習の知識・技術・態度の統合をはかり、基本的な看護技術を習得することで、看護着技術の総合的な評価を行う内容とする。複数患者に対する看護計画の立案、または対象に応じた看護を基本として複数の看護技術を組み合わせ、一定の基準下において看護技術の総合評価を行う。					
講義目標： 1. 看護師に必要な知識と技術と態度について理解する。 2. 複数患者に対する優先度を考慮した看護計画の立案ができる。 3. 対象の状態や状況に合わせた援助が実施できる。 4. 自己の臨床実践能力を客観的に評価できる。					
講義計画（全体のスケジュール・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）					
回	学習内容	方法	教材		
1 2 3 4	1) 看護とは 2) 看護倫理 3) 私の大切にしたい看護（課題提出と発表） 4) 倫理観（課題提出と発表） 5) リーダーシップとマネジメント	講義 個人ワーク VTR 視聴 発表会 学内実習 （練習） テスト	テキ スト		
5 6 7	多職種との 協働 生涯学習				
8 9	1) 看護職を取り巻く環境 2) 多職種の理解と協働の意味 3) 看護職のキャリアデザインと生涯学習				
10 11 12	1) 看護職の労働環境と医療安全 2) インシデントへの対応				
13 14 15	1) 多重課題とは 2) 多重課題に対する看護師の対応 3) 複数患者を想定した一日の業務計画立案 4) 二事例の看護過程展開（学内実習 ロールプレイ）				
13 14 15	点滴の滴下計算・点滴中の寝衣交換（学内実習） 滴下計算（ペーパーテスト）				
補足：初回の授業の冒頭で、簡単な科目オリエンテーションを行う					
受講上の注意：講義内容によっては演習あり。				評価方法：下記参照	
使用するテキスト： 1. 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社					
参考文献／書籍：特になし					
評価参照：ただし評価方法・基準が変更することもある。 出席状況 15 点、課題提出と発表 20 点、学内実習 45 点、ペーパーテスト 20 点					